

横浜市立みなと赤十字病院

平成24年度事業計画書

平成23年10月31日

計画書 内容		頁
I 医療提供計画書		1
1	政策的医療への取組	1
(1)	救急医療	2
(2)	緩和ケア医療	3
(3)	障害児者合併症医療	4
(4)	災害時医療・市民の健康危機への対応	5
(5)	アレルギー疾患医療	6
(6)	精神科救急医療	9
(7)	精神科合併症医療	10
2	地域医療連携	11
(1)	紹介率・逆紹介率	12
(2)	関連病院	12
(3)	地域医療機関との交流	12
3	地域医療の質向上	14
(1)	治験・受託研究	15
(2)	相談・啓発活動	16
(3)	市民委員会	17
(4)	カルテ開示	20
(5)	倫理委員会	25
4	病院管理	26
(1)	安全管理	27
(2)	災害対策	28
(3)	患者サービス	29
5	職員等研修	30
(1)	院内職員研修計画	31
(2)	院外学生研修計画	33
(3)	臨床研修プログラム	35
6	外部委託	61
(1)	外部委託業務	62
7	情報管理	63
(1)	管理責任体制・安全対策等	64
8	職員	68
(1)	組織図・職員配置予定数	69
(2)	診療科責任体制	71
(3)	看護責任体制	72
(4)	中央部門責任体制	73
(5)	管理部門責任体制	74
II 施設管理計画書		75
9	医療機器等の整備計画	75
(1)	医療機器の整備計画	76
10	施設管理	77
(1)	施設・設備管理計画	78
11	経営計画	80
(1)	科別患者数	81
(2)	科別患者数（中期経営計画）	83
(3)	科別患者一人当たり収入分析	85
(4)	科別収入計画	87
(5)	中央部門業務計画	89
(6)	損益計算書（中期経営計画）	92
(7)	損益計算書資本的（中期経営計画）	93
(8)	手術件数	94
(9)	出産件数	95

横浜市立みなと赤十字病院

平成24年度事業計画書

「Ⅰ 医療提供計画書」

「1 政策的医療への取組」

(1) 救急医療

(2) 緩和ケア医療

(3) 障害児者合併症医療

(4) 災害時医療・市民の健康危機への対応

(責任体制・備蓄資材の状況・実際の取組)

(5) アレルギー疾患医療

(6) 精神科救急医療

(7) 精神科合併症医療

## (1) 救急医療

### ア 救急医療の概要

- ・「救急車を断らない」ことを目標
- ・初期から三次まで重症度に係わりなく受け入れる

### イ 人員体制

職種	氏名・人数
責任医師	八木 啓一
救急指導医	2人
救急専門医	3人
集中治療専門医	2人
麻酔指導医	1人
麻酔専門医	3人

### ウ 平成 22 年度 救急医療実績

軽症	16,707人
中症	4,142人
重症	1,185人
総患者数	22,034人
救急車台数	9,953台

### エ 平成 22 年度実績を踏まえた計画

救急車を出来るだけ断らないことを目標に救急医療を実施してきました。昨年度の救急車受け入れ実績は、神奈川県内はもとより日本国内でトップの実績です。まさに、横浜市の最後の砦として、初期から3次まで重症度に関わりなく救急車を受け入れてきました。

今後も、地域の2次病院で対応できないような重症患者を当院が積極的に受け入れ、地域の救命救急センターとしての最終医療機関としての役割をさらに充実させることを目標として救急医療を実践してゆきたいと思っています。また、地域の病院に対して、救急医療に関する各種 off-the-training 教育を実施することで、地域の救急医療のレベルの向上にも貢献したいと考えています。

## (2) 緩和ケア医療

### ア 平成22年度 実績

入院患者数（新規）	228人
月平均入院患者数	20.9人
平均待機期間	41日
※外来受診から入院までの待機期間	

### イ 概要

#### 病床数

25床	全個室
特別個室	12床
無料個室	13床

#### 入院対象

- 1 がんなどの悪性疾患で終末期（余命6ヶ月以内）にある方
- 2 患者と家族が病名やまたは病状を理解して緩和ケアの入棟を希望する方
- 3 症状が悪化し在宅での生活が困難になった方
- 4 入院対象にある疾患でかつ在宅で過ごしている方で、家族の休息のための短期入院を希望する場合

#### 入院までの手続き

- 1 電話で外来を予約（必要書類を自宅へ郵送）
- 2 必要書類を準備し、外来受診（家族の代理受診可）
- 3 病棟内での判定会議後、待機状況について連絡
- 4 入院決定したら連絡

#### 緩和ケア病棟の役割

- 1 横浜市民のための緩和ケアの提供
- 2 症状緩和を中心とした医療提供
- 3 在宅生活や介護生活の疲労の軽減
- 4 終末期の安心で安寧な生活の提供
- 5 地域と連携し在宅療養を支援

### ウ 緩和ケアチームの取組

#### 構成メンバー

専従緩和ケア医師	1名
精神科医師	1名
専従看護師	1名
薬剤師	1名

一般病棟で緩和ケアを必要とするがん患者に、疼痛をメインとした症状コントロールと精神的な支援を多職種と協働しながら提供する。

### エ 人員体制

職種	氏名
責任医師	黒田 俊也
師長	1人
看護師人数	22人（非常勤含む）
助手人数	2人
クラーク人数	1人

(3) 障害児者合併症医療

ア 平成22年度実績

○外来通院患者 延べ総数 61例

○入院患者 延べ総数 36例

入院日数 延べ 315日 (1日平均0.9人)

<入院の内訳>

緊急医療入院 21例

…(肺炎・気管支炎、尿路感染症、胃腸炎・経口摂取不良、喘息、痙攣など)

予定入院 15例

…(検査目的、検査+栄養チューブ交換目的、悪性腫瘍、手術目的など)

イ 概要

昨年度までの実績に基づき、下記のように計画しております。

○外来通院患者 延べ総数 70例

○入院患者 延べ総数 40例

入院日数 延べ 200~400日 (1日平均0.6~1.0人)

<入院の内訳>

緊急医療入院 30例

…(肺炎・気管支炎、尿路感染症、胃腸炎・経口摂取不良、喘息、痙攣など)

予定入院 15~20例

…(検査目的、検査+栄養チューブ交換目的、悪性腫瘍、手術目的など)

また、横浜市で計画中の「メディカルショートステイシステム」に参画予定です。

ウ 人員体制

職種	氏名
責任医師	菊池 信行
担当医師	大澤 由記子
連携医師	各診療科担当医
病棟看護師	2人
外来看護師	1人
在宅支援看護師	1人
理学療法士	1人
医療ソーシャルワーカー	1人
事務	2人

(4) 災害時医療・市民の健康危機への対応

ア 責任体制（中央体制のみ）

職種	所属	役割
医師	病院長	災害対策本部長
医師	副院長	災害対策副本部長
医師	副院長	災害対策副本部長
医師	副院長	災害対策副本部長
医師	救命救急センター長	災害対策本部要員
医師	救急部長	災害対策本部要員
医師	医療連携センター長	災害対策本部要員
看護師	看護部長	災害対策本部要員
看護師	看護副部長	災害対策本部要員
看護師	看護副部長	災害対策本部要員
事務	事務部長	災害対策本部要員
事務	総務課長	災害対策本部要員
事務	赤十字事業推進課長	災害対策本部要員

医師	救急部長	救護員指導者
看護師	看護師長	救護員指導者

医師	救急部長	第1救護班長
医師	救命救急センター長	第2救護班長
医師	外科部長	第3救護班長
医師	脳神経外科部長	第4救護班長
医師	救急部医師	第5救護班長
医師	集中治療部長	第6救護班長
医師	循環器科副部長	第7救護班長

災害時用緊急資材(\*)一覧

- |                         |                  |             |              |
|-------------------------|------------------|-------------|--------------|
| ○救急車2台                  | ○救急車1台           | ○原付バイク1台    | ○電動アシスト自転車1台 |
| ○医療救護セット 2組             | ○携帯型医療救護セット2組    | ○医救セット置き台1組 |              |
| ○折りたたみリアカー 1            | ○NBC災害除染セット 1セット | ○エアータント1式   |              |
| ○クイックテント 3              | ○担架 8            | ○担架置き台3組    |              |
| ○簡易トイレ 16               | ○簡易トイレ用テント1      | ○ポータブル吸引機   |              |
| ○レサシテーター 2              | ○エアータント用クーラー 1   | ○マルチレーター    |              |
| ○携帯発電器 3                | ○衛星携帯電話 1        | ○業務用無線機 2   |              |
| ○小電力無線機 10              | ○車載用折り畳み台車 1台    | ○台車 4台      |              |
| ○メディラップ50枚              | ○折り畳み簡易ベット340台   |             |              |
| ○スノッグストレッチャー(簡易ベッド)300台 |                  |             |              |
- ※この他に救護班用団体装備、個人装備等多数あり

(\*)通常診療用とは別に確保してある資器材

県支部所管備蓄倉庫物品、横浜市健康福祉局からの依頼備蓄薬品等を除く

災害対応・市民健康危機への行動(実績)

東日本大震災への出動(救護班:9班283名、こころのケア:10班89名)  
 救急員養成講習会の開催  
 防災ボランティアの養成

## (5) アレルギー疾患医療

### ア 概要

アレルギー・免疫疾患に関する政策的医療としての「診療」、「相談・情報提供」、「情報発信」、「啓発」、「臨床研究」を関連9診療科の連携のもとに実施する。

### イ 現状と課題

#### 1. アレルギー・免疫疾患の診療

9診療科によるアレルギー・免疫疾患の合同カンファレンス等に基づいた横断的診療に取り組んでおり、中心となるのは、アレルギー科、小児科、皮膚科、耳鼻咽喉科の4診療科、および関節リウマチを扱う膠原病リウマチ内科である。

他院からの紹介の約4割を占める気管支喘息および慢性咳嗽はアレルギー科と小児科で専門的診療を展開しており、診断・治療の最後の砦として、大学病院や他の総合病院からの紹介も多い。また、短時間で死に至ることのある食物・薬物・ハチ刺傷によるアナフィラキシー（ショック）については、横浜市内最大数の患者を扱っており、緊急時に患者が実施するアドレナリン自己注射の処方数も横浜市で一番多い。

大学病院や他の総合病院から紹介されるような診断に苦慮する症例や難治性の症例は一人当たりの外来診療と検査に長時間を要する（特に初診時は1人に1時間近く）。各種専門的検査（スパイログラフとモストグラフによる気道可逆性試験、呼気一酸化窒素の測定、皮膚反応試験など）や喘息長期管理のための患者教育と指導（全喘息患者への吸入指導、小児喘息患者と両親への病態説明など）を外来で実施中であるが、その特殊性から中央検査部や一般看護師には実施が困難であり、アレルギーセンターで訓練を受けた保健師が「1名」で対応しているため、患者の待ち時間が長くなる要因となっている。

また、日本アレルギー学会が示す「アレルギー教育認定施設」に適合するアレルギー専門施設としての資格を維持するには、アレルギー科と小児科に指導医1名あるいは専門医2名、皮膚科と耳鼻咽喉科に各々専門医1名が必要であるが、現在その条件を満たしているのはアレルギー科のみであり、またアレルギー科も指導医を含めて1.5名（1名は呼吸器科と併任）という現状から医師の確保に努めたい。

#### 2. 相談・情報提供

成人・小児喘息相談（横浜市健康福祉局保健政策課からの受託事業）を毎月実施している。



### 3. 情報発信

アレルギーセンター事務員1名が中心となり、センター機能に関する情報をセンターホームページ（HP）やブログを適宜更新中である。また、喘息・花粉症などの自己管理を目的とする粉塵・花粉・気象観測データのHPへのリアルタイム（数分毎の更新）アップロードには、センターの研究補助員および提携業者（気象専門会社）が24時間体制で監視・検証を実施している。

### 4. 啓発活動

一般市民を対象とする「アレルギーを考える横浜市民フォーラム」（年2～3回）、医療従事者一般を対象とする「横浜みなと免疫アレルギー講演会」（年1～2回）、当センターが代表施設である「横浜環境アレルギー研究会」の講演会（年1回）、当院職員と地域連携開業医を対象とする「みなとセミナー」（年数回）、当院通院患者を対象とする「成人喘息教室」・「小児喘息教室」・「関節リウマチ教室」（各々年3～5回）を実施している。

数多くの講演会など具体的な作業（会場設営や講師・業者とのやりとり）はセンターへの派遣事務員1名が担当している。全日にわたる外来受付業務や数分毎に生じる一般市民や受診希望者からの電話相談などへの対応（これらもアレルギーセンター業務に位置づけられている）に追われるため、派遣社員の時間外作業が多い。

また、平成23年9月よりアナフィラキシーに対するアドレナリン自己注射（エピペン®）が保険診療扱いになり、予想される問題がある。以前に副市長が当センターを視察された際指摘されたように、今後は学校や幼稚園・保育園の教師や保育士に対して、児童が同注射薬を使用する際の補助に関する指導やアレルギーに関する全般的な知識の啓発を当センターが担う必要がある。現在も区役所から、当センターのアレルギー専門小児科医や保健師への教育講演会の依頼がある。

### 5. 臨床研究

市内6ヶ所に設置した粉塵・花粉・気象観測機器を用いた環境データ解析（EARTH）によるアレルギー疾患の予防、および携帯電話を用いた喘息遠隔医療（ARMS）による喘息コントロールの改善に関する臨床研究を長期間にわたって実施中である。日本アレルギー学会（年2回）と日本呼吸器学会（年1回）およびその他の主要な関連学会で多数発表しており、注目を集めている。これらの研究は、センターの研究補助員1名が中心となり解析作業を実施し、研究実施に関する国内の他施設共同研究者（徳島大学医療情報部など）や提携業者（気象専門会社およびIT関連会社）と毎月1回の定期会議を開催している。

アレルギーセンターの複数診療科による共同臨床研究も実施していきたいと考えている。

#### ウ 平成23年度に向けた計画

##### 1. アレルギー・免疫疾患の診療

危急の問題はアレルギーセンタースタッフの確保である。平成23年度中に、アレルギー科に加えて小児科と皮膚科のアレルギー診療業務も2階のアレルギーセンターへ移行する予定であり、今後は最低でもアレルギーセンターの保健師1名から2名に増やす必要がある。また、前述の専門的検査は全ての喘息患者に対して外来受信時に毎回実施するため、検査技師の資格を有するスタッフ1名が必要である。

医師の確保については、アレルギー科を3名体制にすると同時に、小児科、皮膚科、耳鼻咽喉科をアレルギー教育施設に認定すべく、各々最低1名ずつのアレルギー専門医を確保する予定である。

##### 2. 啓発活動

100人以上を対象とする規模の啓発活動については、具体的作業をその都度、アレルギーセンター補助金により外部業者へ委託する。教師や保育士に対するアレルギー指導については、アレルギー専門の小児科医師2名以上と保健師2名以上の確保が急務となる。

##### 3. 臨床研究

複数診療科による共同臨床研究は、アレルギーセンター補助金により研究補助員を雇用することで医師の負担を減らせば推進できると考える。

EARTH研究に関しては、対象患者の拡大とさらなる内容の充実を目的として、国立病院機構相模原病院院長の秋山一男先生（日本アレルギー学会理事長）の協力により同病院屋上にも環境観測機器を設置予定である。

ARMS研究も、喘息予報等への応用を他施設へも拡大予定である。

また、当センターで扱う多くのアナフィラキシー患者を対象として、同疾患の治療法開発へ向けた東京医科歯科大学の基礎研究機関との共同研究を計画中である。

## (6) 精神科救急医療

### ア 精神科救急医療の概要

- ・対象患者は、自傷あるいは他害の恐れがある患者
- ・警察官あるいは横浜市職員が同伴して受診する
- ・受入時間

平日（深夜当番日除く） 17:00～22:00

休日（深夜当番日除く） 8:30～22:00

深夜当番日（毎週水・月曜日） 平日 17:00～翌8:30

休日 8:30～翌8:30

### イ 人員体制

職種	氏名・人数
責任医師	石東 嘉和
医師総数	7 人
うち精神保健法指定医	4 人
師長	1 人
看護師総数	27 人
1日あたり夜勤看護師数	4 人
精神保健福祉士人数	2 人 専任 ・ 兼任
その他人数	3 人

### ウ 平成22年度 精神科救急医療実績

二次救急患者数	診察のみ	2 人
	入院患者数	10 人
三次救急患者数	措置診察のみ	11 人
	措置入院	31 人
	医療保護入院	0 人
平均在院日数		17.36 日
転帰内訳	転院	34 人
	在宅	3 人
	その他	3 人

### エ 平成22年度実績を踏まえた計画

精神科救急合併症入院料の施設基準の中に年間措置入院患者件数が30件とあるので、この数を確保したい。

## (7)精神科身体合併症医療

### ア 身体合併症システムの概要

- ・対象患者は、県内の精神病院に入院中の患者
- ・入院目的は身体疾患治療
- ・入退院には横浜市が介在し調整
- ・受入は平日昼間

### イ 平成22年度 精神科身体合併症医療実績

受入患者数		71 人
受入医療機関数		21 病院
入院患者数		58 人
平均在院日数		23.24 日
転帰内訳	元の病院への転院	49 人
	元の病院以外への転院	2 人
	在宅	2 人
	その他(死亡/入院中)	5(2/3) 人

### ウ 平成22年度実績を踏まえた計画

当院の精神科身体合併症患者受入は神奈川県全体でみると、75.5%に達している。

横浜市内での他の受入病院は市大センター病院と東部病院があるが、当院の受入件数は、市大センター病院の12.3倍、東部病院の2.4倍となっている。

横浜市の政策的医療では、70件程度となっているが、更なる受入をしている状態である。

今後より一層の政策医療への貢献を計画している。

## 横浜市立みなと赤十字病院

### 平成24年度事業計画書

#### 「I 医療提供計画書」

#### 「2 地域医療連携」

- (1) 紹介率・逆紹介率の推移
- (2) 連携を進める関連病院
- (3) 地域医療機関との交流等

## 2 地域医療連携に関する計画

### (1) 紹介率・逆紹介率

	24年度	25年度	26年度
紹介率の推移 (%)	80	80	80
逆紹介率の推移 (%)	50	50	50

### (2) 特に連携を進める関連病院

- ア 登録医
- イ 横浜南部保健医療圏（中区・磯子区・南区・金沢区・港南区・栄区の医療機関）
- ウ 地域医療連携パス連携医療機関
- エ 救急搬送患者地域連携紹介・受入加算連携医療機関

### (3) 地域医療機関との交流等

#### ア 当院主催等

##### (ア) みなとセミナー

当院診療科や各委員会等が主催し、地域医療連携の推進および地域医療従事者を対象とする研修

##### (イ) 4区(中区・磯子区・南区・西区)医師会・みなと赤十字病院合同研究会

当院への紹介の多数をしめる中区・磯子区・南区・西区医師会員との合同症例研究会

##### (ウ) 横浜市各区医師会・みなと赤十字病院医療連携交流会

横浜市の各区医師会主催による当院医師との医療連携推進交流会

##### (エ) 地域医療支援委員会

医療法施行規則第九条の十九に定められた、地域医療支援病院に開催を義務づけられる委員会。地域における医療の確保のために当該業務が適切に行われるために必要な事項を審議し、病院管理者に意見を述べる委員会

##### (オ) 地域医療連携パス合同委員会

大腿骨頸部骨折と脳卒中に関して、計画管理病院と連携する保険医療機関との間で、地域連携診療計画に係る情報交換のための会合を、年3回程度定期的に行われ、診療情報の共有、地域連携診療計画の評価と見直しをするための合同委員会

#### イ 他医療機関主催の交流事業への参加

##### (ア) 神奈川県脳卒中広域シームレス医療研究会

神奈川県内に組織されるいくつかの脳卒中地域医療連携パスネットワークの合同研究会

##### (イ) かいごのW a なか在宅看護部会

横浜市介護保健事業所主催による、みなと赤十字病院等基幹病院、訪問看護ステーション等の連携について症例検討や研修を毎月開催

- (ウ) 地域連携業務に携わる担当者交流会  
横浜南部保健医療圏の中核病院で、地域連携業務に携わる事務担当者の交流会を隔月当番制で開催
  
- (エ) 退院支援看護師交流会  
横浜南部保健医療圏を中心とする中核病院で、退院支援業務に携わる看護師の交流会を年に数回当番制で開催
  
- (オ) 神奈川地域医療連携実務者連絡会  
医療保険制度および介護保険制度のもと、保健医療福祉施設の円滑な実施を図るため、県内で活動する地域医療連携室に勤務する職員のスキルアップと親睦を図るとともに、2次医療圏ごとのネットワークを構築する。
  
- (カ) 日赤東部ブロック医療連携実務研究会  
関東近圏18病院の赤十字病院で、地域医療連携業務について、情報交換や研究を行うため、年1回当番制で開催
  
- (キ) 日赤東部ブロック医療連携講演会  
関東近圏18病院の赤十字病院で、地域医療連携業務について、日頃の業務報告や講師による講演会を年1回当番制で開催

## 横浜市立みなと赤十字病院

### 平成24年度事業計画書

#### 「I 医療提供計画書」

#### 「3 地域医療の質向上」

##### (1) 治験・受託研究

##### (2) 患者・市民に対する相談・啓発活動

##### (3) 市民委員会

(市民委員会要綱)

##### (4) カルテ開示

(診療報酬の提供に関するガイドライン)

##### (5) 倫理委員会



(1) 治験・受託研究

	治験・受託研究の名称	内容・目的
1	医薬品・医療機器の治験	製薬会社からの依頼による臨床試験（フェイズⅠ～フェイズⅢ）
2	市販後調査	使用成績調査、特別調査、市販後臨床試験
3	自主研究	医師主導の臨床研究
4	適用外使用	医薬品の適応外使用に関する審議
5	治験ホームページ	臨床試験管理センター（仮称）のホームページにより、治験の啓発と依頼者への当院での治験体制、手続き方法等のインフォメーション

(2) 患者・市民に対する相談・啓発活動

	名称	内容	対象者
1	赤十字健康生活支援講習会	体の移動・車椅子の取り扱い方法等	一般市民

### (3) 市民委員会

#### 1 委員

	委員名	役職・任命月日等
1	行天 良雄	委員長（医事評論家） 平成18年9月11日委嘱
2	保坂 洋夫	委員（神奈川県済生会理事） 〃
3	向山 秀樹	委員（横浜市中区医師会会長） 〃
4	荻野アンナ	委員（作家 慶応義塾大学文学部教授） 〃
5	前田 次啓	委員（日本発条株式会社最高顧問） 〃
6	川本 守彦	委員（川本工業株式会社代表取締役社長） 〃
7	河村 朋子	委員（磯子区医療センター訪問看護ステーション管理者）平成21年9月1日委嘱
8	山田 五男	委員（中区連合町内会長連絡協議会会長） 〃
9	国広 尚武	委員（みなと赤十字病院奉仕団団員） 平成23年2月1日委嘱
10		

#### 2 平成24年度委員会開催計画

上半期開催予定(平成24年4月～9月)

下半期開催予定(平成24年10月～平成25年3月)

#### 3 委員会要綱

横浜市立みなと赤十字病院市民委員会要綱参照

## 横浜市立みなと赤十字病院市民委員会要綱

### (設置)

第1条 横浜市立みなと赤十字病院市民委員会（以下、「委員会」という。）は、横浜市立みなと赤十字病院（以下、「当院」という。）の運営に関し、市民の意見を反映させることによって、適切な役割・機能の確保と、提供する医療・サービスの質の向上を図ることを目的とする。

### (役割)

第2条 委員会は、次に定める事項について協議し、院長に意見を述べるものとする。

- (1) 市民に対して提供する当院の情報に関すること。
- (2) 当院が提供する医療・サービスの質の向上に関すること。
- (3) 当院の運営に関すること。

2 院長は、委員会の意見を尊重し、当院の運営に適切に反映されるよう努めるものとする。

### (委員)

第3条 委員会の委員は、次に掲げる者の中から、おおむね10名の範囲内で院長が選任する。

- (1) 当院利用者その他の市民
- (2) 医療に関するNPO、病院ボランティア等関係者
- (3) 地域医療関係者
- (4) 企業経営、顧客サービス等について学識又は経験を有する者
- (5) 医療、病院経営等について学識又は経験を有する者。
- (6) その他院長が適当と認める者

2 委員の任期は、3年とする。ただし、特段の支障がない限り再任することができる。

3 委員に欠員が生じたときは、補欠の委員を選任することができる。補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。

### (委員長)

第4条 委員会に、委員長1名を置く。

2 委員長は、委員会を総括し、会議の議長を務める。

3 委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務は、委員長が委員の中からあらかじめ定めた者が代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議（以下、「会議」という）は必要に応じて委員長が召集する。

- 2 会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。
- 3 委員長が適当であると認めたときは、各委員は、委員会に代理者に出席させることができる。

(会議の公開等)

第6条 会議は、原則として公開とする。

- 2 委員長は、会議を非公開とする必要があると認めるときは、委員の意見を聴いた上で、非公開の決定をすることができる。
- 3 前項の場合における非公開の事由については、次の各号に掲げる場合とする。
  - (1) 他の法令等に特別の定めがある場合
  - (2) 非公開情報に該当する事項を審議する場合
  - (3) 会議を公開することにより、公正かつ円滑な議事運営が著しく阻害されると認められる場合で、市及び当院双方の決定により、その会議の全部又は一部を公開しないこととした場合。
- 4 会議資料、議事録等は、速やかに適切な方法により一般に公開するものとする。
- 5 その他、会議の公開等に関して必要な事項については、院長が別に定める。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、事務部総務課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項は、委員長が定める。

附 則

この要綱は、平成18年8月22日から実施する。

附 則

この要綱は、平成21年9月1日から実施する。

#### (4) カルテ開示

- ア ガイドライン  
診療情報の提供に関するガイドライン参照
- イ その他  
電子カルテ端末により、検査結果と診療スケジュール(薬剤、食事、検査)を任意に開示

## 診療情報の提供に関するガイドライン

### 1. 基本理念

横浜市立みなと赤十字病院は、医師が診療情報を積極的に提供することにより、患者が疾病と診療の内容を十分に理解し、医師と患者とが相互に信頼関係を保ちながら、疾病を克服することを目的として、病院の倫理規範の一つとして、当ガイドラインを制定する。又患者死亡後の遺族（法定相続人）に対しても対応する。

横浜市立みなと赤十字病院の全ての医師は、この目的を達成する為に、個人情報保護法並びに当ガイドラインの趣旨に沿って、患者への診療情報の提供に努めるものとする。

### 2. 定義及び適用範囲

当ガイドラインで使う主な用語の意味は、以下のとおりとする。

- (1) 診療情報・・・診療の過程で、患者の身体状況、病状、治療等について、医師又はその指揮・監督下にある医療従事者が知り得た主観的、客観的情報
- (2) 診療録・・・医師法第24条所定の文書
- (3) 診療記録等・・・診療録、手術記録、麻酔記録、各種検査記録、検査成績表、エックス線写真、助産録、看護記録、リハビリ実施録、その他、診療の過程で患者の身体状況、病状等について作成、記録された書面、画像等の一切
- (4) 要約書・・・診療記録等の主要な内容を簡略にまとめたもの
- (5) 診療記録等の開示・・・患者など特定の者に対して、診療記録等を閲覧させ、写し（複写）を交付し、またはこれらに変えて要約書を交付すること
- (6) 遺族・・・診療録等の開示を求めることができる者は、患者の法定相続人に限定する

### 3. 診療情報の提供

#### (1) 診療情報提供の一般原則

- ア 医師は、患者及び遺族に対して懇切に診療情報を説明・提供するよう努める。
- イ 診療情報提供は、口頭による説明、説明文書の交付、診療記録等の開示等、具体的状況に即した適切な方法により提供する。

(2) 診療の際の診療情報提供

ア 診療中の患者に対する診療情報の説明・提供は、概ね次に掲げる事項を含むものとする。

(ア) 現状の症状及び診断病名

(イ) 予後

(ウ) 処置及び治療の方針

(エ) 処方する薬剤については、薬剤名・服用方法・効能・特に注意を要する副作用

(オ) 代替的治療法がある場合には、その内容及び利害損失

(カ) 手術や侵襲的な検査を行う場合には、その概要、危険性、実施しない場合の危険性、合併症の有無

イ 患者が「知らないでいたい希望」を表明した場合には、これを尊重する。

ウ 患者が死亡した際には、遺族に患者の死亡に至る診療経過、死亡原因などの説明を行う。

(3) 診療記録等の開示による情報提供

ア 医師及び院長は、患者又は遺族が診療記録などの閲覧、複写を求めた場合には、原則としてこれに応ずるものとする。

イ 医師及び院長は、診療記録等の閲覧、複写に変えて、要約書を交付することができる。

ウ 診療記録等の開示の際、患者又は遺族が補足的な説明を求めたときは、医師は出来る限り速やかにこれに応ずるものとする。

(4) 診療記録等の開示を求め得る者

診療情報などの開示を求めることができる者は、原則として次のとおりとする。

ア 患者が成人で判断能力がある場合は、患者本人

イ 患者に法定代理人がある場合は、法定代理人。但し、満15歳以上の未成年者については、疾病の内容によっては本人のみの請求を認めることができる。

ウ 患者本人から代理権を与えられた親族

エ 患者が成人で判断能力に疑義がある場合は、現実に患者の世話をしている親族及びこれに準ずる縁故者

オ 診療契約に関する代理権が付与されている任意後見人

カ 患者死亡後は遺族（法定相続人）に限定する

(5) 診療記録等の開示を求める手続き



ア 診療記録等の開示を求めようとする者は、横浜市立みなと赤十字病院が定めた方式にしたがって、院長に対して申し立てる。

イ 前項の申立人は、自己が前記3-(4)に定める適正な申立人であることを証明するものとする。

ウ ア項の申し立てを受けた院長は、速やかに診療記録等を開示するか否か等を決定し、これを申立人に通知する。

(6) 費用の請求

院長は、診療記録等の謄写に要した代金等の実費を診療記録等の開示を求めた者に請求することができる。

(7) 手続き規定の整備

院長は、診療記録等の開示請求、実施、費用請求等に関する規定及び申し立て書の書式を整備する。

(8) 診療記録等の開示などを拒みうる場合

医師及び院長は、患者からの診療情報の提供、診療記録等の開示の申し立てが、次の事由に当たる場合には、前記3-(1)、3-(2)、及び3-(3)の定めにかかわらず診療情報の提供、診療記録等の開示の全部又は一部を拒むことができる。なお、診療記録等の開示などを拒む場合には、苦情処理機関（地方医師会に開設）があることを教示する。

ア 対象となる診療情報の提供、診療記録の開示が、第三者の利益を害する恐れがあるとき

イ 診療情報の提供、診療記録等の開示が、患者本人の心身の状況を著しく損なう恐れがあるとき

ウ 前二号のほか、診療情報の提供、診療記録等の開示を不相当とする相当な事由が存在するとき

#### 4. 医師相互間の診療情報の提供

医師の求めによる診療情報の提供

ア 当院の医師は、患者の診療のために必要があるときは、患者の同意を得て、その患者を診療した、若しくは、現に診療している他の医師に対して直接に検査等の診療情報の提供を求めることができる。

イ 前項の求めを受けた医師は、患者の同意を確認したうえで、検査記録等の診療情報を提供するものとする。

## 5. その他

### (1) 教育、研修

横浜市立みなと赤十字病院は、医師がガイドラインを遵守することを促すために、診療情報の提供、診療記録等の開示に関する教育、研修に努める。

### (2) 診療録等の開示に係る相談窓口の設置

医師と患者又は遺族との間の診療情報の提供や診療記録等の開示に関する苦情等の受付窓口は外来業務課とする。

### (3) ガイドラインの効力

当ガイドラインは、施行日以前になされた診療及び作成された診療記録等については適用されない。

### (4) ガイドラインの見直し

横浜市立みなと赤十字病院は、当ガイドラインを、診療録その他の診療記録等の作成・管理に関する環境の整備、並びに医療をめぐる諸条件の変化に適応させるため、2年ごとにその内容を見直す。

但し、必要があるときは、何時でも適宜、検討することができる。

## 付則

(施行期日) このガイドラインは、平成17年 4月 1日より施行する。

(改定) このガイドラインは、平成18年 4月 1日より施行する。

(改定) このガイドラインは、平成18年10月 1日より施行する。

## (5) 倫理委員会

### 1 医療倫理委員会開催日

年3～4回開催予定(不定期)

### 2 委員名

	委員名	役職・性別・任命月日・委嘱期限等
1	小森 博達	委員長(副院長)・男・平成17年4月1日任命
2	高橋 誠司	外部委員(元神奈川県立保健福祉大学教授)・男・平成17年4月1日任命
3	田中 治	外部委員(弁護士)・男・平成22年5月6日任命
4	中村 陽一	委員(アレルギーセンター長)・男・平成17年4月1日任命
5	山本 晃	委員(第三内科部長)・男・平成18年4月1日任命
6	石束 嘉和	委員(精神科部長)・男・平成17年4月1日任命
7	伊藤 理	委員(形成外科部長)・男・平成17年4月1日任命
8	田淵 典之	委員(心臓血管外科部長)・男・平成17年4月1日任命
9	小笠原 利枝	委員(看護部師長)・女・平成18年4月1日任命
10	福家 修子	委員(看護部師長)・女・平成22年4月1日任命
11	高橋 弘充	委員(薬剤部長)・男・平成17年4月1日任命
12	大堀 浩	委員(総務課長)(委員会事務局)・男・平成23年5月1日任命

横浜市立みなと赤十字病院

平成24年度事業計画書

「I 医療提供計画書」

「4 病院管理」

(1) 安全管理

(2) 災害対策

(3) 患者サービス

(1) 安全管理

	会議・イベント等	内容	頻度	参加者
1	医療安全管理委員会	医療安全対策の検討および推進に関すること。医療安全推進のための研修に関すること。インシデント・アクシデントレポートに関する報告。	月1回 要事設置	医師・看護師・薬剤師・事務
2	RM委員会	インシデント・アクシデント報告事例の提出促進、集計・分析結果の周知および共有。警鐘事例の共有。対策案協議。リスクマネージャーへの教育。	月1回	実務者レベルの医師・看護師・事務・コメディカル
3	医療事故調査委員会	当該医療行為の発生経過、原因について検討。これに伴う診療録および諸資料の整備。	要事設置	医師・看護師・事務・外部委員
4	感染対策委員会	感染対策の検討および推進に関すること。職員教育、マニュアル改訂。抗生物質、消毒剤の適正投与に関する検討。	月1回	医師・看護師・薬剤師・検査技師・事務
5	感染対策チーム	院内感染の調査、研究、予防策などの検討・指導。	週1回	医師・看護師・薬剤師・検査技師・事務
6	医療の質検討委員会	医療の質の改善・向上について検討。患者本意の医療を推進する。	月1回 要事設置	医師・看護師・事務
7	職員研修	医療安全に関する事について	年2回	全職員
8	〃	院内感染対策について	年2回	〃

(2) 災害対策

	会議・訓練等 名称	内容	頻度	参加者
1	救護担当者会議	日赤県支部を中心に県内赤十字の救護について検討・連絡・調整を行う。	年4回	赤十字事業推進課および看護部救護担当者
2	災害医療拠点病院連絡協議会	神奈川県内32の拠点病院連絡会議	年数回	赤十字事業推進課救護担当者等
3	神奈川DMAT連絡協議会ロジ部会	神奈川DMAT指定病院のDMAT登録調整員の実務に関する部会	年数回	DMAT調整員登録者2名
4	災害医療検討ワーキング	みなと赤十字病院の災害医療全般について検討	年数回	救命救急センター長を中心に10名程度
5	日赤神奈川県支部救護班要員教育訓練	日赤県支部が実施する県内各施設の救護班要員に対する基礎から応用までの訓練	年1回	救護班要員登録者
6	日赤神奈川県支部救護班主事研修会	日赤県支部が実施する県内各施設の救護班主事に対する基礎的な研修	年1回	救護班主事登録者
7	九都県市合同防災訓練	首都九都県市の総合防災訓練	年1回	救護班要員登録者
8	東京国際空港航空機事故対処総合訓練	東京国際空港緊急計画連絡協議会の構成機関による総合訓練に参加	年1回	救護班要員登録者
9	dERU取り扱い研修会	日赤県支部が実施する県内各施設の救護班要員に対する研修会	年数回	施設救護担当者 救護班要員登録者
10	船舶搬送患者受け入れ訓練	緊急時患者搬送用接岸場の船舶から救急外来まで、患者を搬送する訓練	年1回	職員・奉仕団
11	NBC災害除染訓練	NBC災害に対応できるよう、除染セットを使用した訓練	不定期	職員・委託業者・奉仕団等
12	災害医療対応訓練	災害想定を元に、多数傷病者の受け入れや病棟管理、災害対策本部運営など、総合的な訓練	年1回	職員・委託業者・奉仕団等
13	災害時のこころのケア研修	災害時医療救護活動にあたる救護員を対象として行う研修	年1回	救護員登録者

(3) 患者サービス

	イベント・会議・研修等名称	内容	頻度	参加者
1	クリスマスコンサート	市民ボランティアグループによる歌や奉仕団手作りのクリスマスカードのプレゼント	年1回	対象；入院患者 協力；みなと病院奉仕団
2	各種コンサート	ボランティアによる歌や楽器演奏などのミニコンサート	年数回	対象；入院・外来患者 協力；みなと病院奉仕団
3	みなと日赤寄席	落語会	年1回	対象；入院患者・家族 協力；みなと病院奉仕団
4	病棟単位イベント	子供の日、七夕、夏祭り、クリスマス等四季折々のイベントを病棟で実施し、ボランティアが支援	随時	対象；入院患者 協力；みなと病院奉仕団
5	ボランティア活動推進連絡会	ボランティアと病院との連絡調整会議	年数回	みなと赤十字病院奉仕団役員と関係職員
6	病院ボランティア養成講座	みなと赤十字病院のボランティアを志す人を対象とした講座	年2回程度	対象；一般市民 協力；みなと病院奉仕団
7	病棟ボランティア研修会	病院ボランティア養成講座修了者で、緩和ケア病棟を中心に病棟での活動を希望するボランティアのための研修会	年数回	みなと赤十字病院奉仕団員
8	赤十字ボランティア初級研修会	赤十字奉仕団員のための初級研修会	年1～2回	みなと赤十字病院奉仕団員
9	その他ボランティア研修会	ボランティア活動を円滑に進めるための研修会 (車椅子点検研修等)	年数回	みなと赤十字病院奉仕団員

横浜市立みなと赤十字病院

平成24年度事業計画書

「I 医療提供計画書」

「5 職員等研修」

(1) 院内職員研修計画

(2) 院外学生研修計画

(3) 臨床研修プログラム



## 5 職員等研修

### (1) 院内職員研修計画

	研修（勉強会）名称	内容	対象者
1	レベルⅠ	フォローアップ研修、学習会	新人看護職員
2	フィジカルアセスメント	メンバーシップ研修会、事例研究、学習会	看護職員
3	赤十字と看護倫理Ⅱ	講義、事例検討	看護職員
4	ケーススタディ	プリセプターシップ研修会、キャリア開発研修会、フォローアップ研修会	看護職員
5	リーダーシップとメンバーシップ	リーダーシップ研修会、仕事研究、学習会	看護職員
6	家族関係	講義、事例検討	看護職員
7	看護倫理Ⅲ	講義、事例検討	看護職員
8	看護とコミュニケーション 後輩育成	講義、技術、事例検討	看護職員
9	実習指導	講義、事例検討	看護職員
10	看護研究	研究講義、論文抄読、研究指導、発表会	看護職員
11	がん患者看護支援	講義、事例検討	看護職員
12	認知症ケア	講義、演習、事例展開	看護職員
13	口腔ケア	講義、演習、事例展開	看護職員
14	スキンケア	講義、事例検討	看護職員
15	マネジメント入門	マネジメント研修会、中間報告、報告会	看護職員
16	マネジメント実践	マネジメント研修会、体験実習、報告会	看護職員
17	静脈注射研修	法的、論理的根拠、薬理的知識、技術	看護職員
18	救護看護師養成研修(支部・県内3病院合同)	赤十字概論、災害看護論、赤十字救急法	赤十字看護基礎教育施設以外の卒業の看護職員
19	感染管理研修	感染対策・管理について	全職員
20	安全管理研修	安全管理について	全職員
21	リスクマネージャー研修	リスクマネジメントについて、事例検討	院内のリスクマネージャー
22	皮膚・排泄ケア看護学学習会(東部ブロック)	基礎知識、事例検討、演習	院内でストマケアを推進する看護師
23	呼吸療法認定学習会(東部ブロック)	呼吸療法知識、演習	呼吸療法認定を持つ看護師
24	こころのケア研修	こころのケアについて、演習	赤十字救護員

25	看護係長研修（東部ブロック）	係長としての自己課題について確認、対策を学ぶ	看護係長
26	看護師長研修（東部ブロック）	看護師のキャリア形成とナラティブ	看護師長
27	新人オリエンテーション	講演会「接遇について」「個人情報保護法について」「電子カルテの概要」等	新規採用職員
28	新規採用職員基礎研修会（支部）	赤十字職員としての意識の確立、執務に必要な知識の習得、参加相互の交流	新規採用職員
29	赤十字セミナー（支部）	赤十字の組織と事業の概要、業務遂行に必要な基礎知識の習得、参加者の交流	新規採用職員研修会や中堅職員研修会に参加できなかった職員
30	現任係長研修会（支部）	部下の育成指導、仕事の進め方、問題解決、リーダーシップ等	係長または相当職員
31	新任係長級職員研修会（合同）	部下の育成指導、仕事の進め方、問題解決、リーダーシップ等	3 県支部・施設の新任係長級職員
32	新任課長級職員研修会（合同）	赤十字を取り巻く世界情勢の理解、管理者としての認識、問題解決能力の向上	3 県支部・施設の新任課長級職員
33	勤務評定者研修会（本社）	勤務評定制度を公正に実施するため、制度の目的・仕組みについての理解、正しい評定手法等の習得	新任課長および管理者
34	中堅職員研修会（支部）	赤十字事業の現状と課題を踏まえ、中堅職員としての自覚と責任を持たせる。職務遂行に必要な能力の向上	採用後5～10年前後の職員
35	広報研修会（支部）	事業の透明性確保と赤十字活動への理解・共感を深め、広報の基礎を学ぶ	広報委員など
36	新規採用職員フォロー研修会Ⅱ-①（支部）	新規採用研修会の成果と職場内におけるOJTの成果を業務にいかんにかしてきたかの確認	新規採用職員基礎研修会参加者
37	新規採用職員フォロー研修会Ⅱ-②（支部）	新規採用研修会の成果と職場内におけるOJTの成果を業務にいかんにかしてきたかの確認	新規採用職員基礎研修会参加者
38	新規採用職員フォロー研修会Ⅱ-③（支部）	新規採用研修会の成果と職場内におけるOJTの成果を業務にいかんにかしてきたかの確認	新規採用職員基礎研修会参加者
39	ライフプランセミナー（支部）	定年後の生活設計に役立つ情報や計画の立て方	赤十字施設に勤務する55歳以上の職員、総務担当者
40	赤十字病院臨床研修医研修会（本社）	各赤十字病院で研修を受けている研修医に対し、赤十字に触れる機会を与え、赤十字事業に対する理解を深め、研修終了後赤十字病院への勤務を期待する	赤十字病院で臨床研修を行なっている2年次生
41	プログラム責任者養成講習会	円滑かつ効果的な卒後臨床研修の助言・指導その他援助が行なえるようにする	臨床研修指定病院に勤務する医師で、実際にプログラムの作成・立案に関わっている医師
42	臨床研修指導医養成講習会	講演会等	臨床研修指定病院に勤務する医師で、実際に臨床研修医への指導に関わっている7年目以上の医師
43	自己啓発支援制度	「通信教育講座のご案内」の配布及び周知	適任者



	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
日赤大学院国際助産学実習																																										
日赤看護大学院(がん専門)																																										
日赤フロンティアセンター(がん化学療法)																																										
県立保健福祉大実践センター(がん支援)																																										
神奈川県看護協会(緩和ケア)																																										
日本看護協会(認知症ケア認定)																																										
日本看護協会(小児救急看護認定)																																										
京都大(がん化学療法認定)																																										
県立保健福祉大実践センター(重症ケア認定)																																										
広島大大学院保健学科(慢性疾患看護) 渡辺真子 外来																																										
石川県立看護大学大学院 藤原 穂積・緩和ケア(CNS)村上真由美																																										

### (3) 臨床研修プログラム

#### 【研修理念】

横浜市立みなと赤十字病院は、平成17年4月に開院して以来、順調に医療機能を充実させてきた。特に救急医療については、救急車の搬送台数で全国有数となり、救命救急センターがオープンし重症患者の受け入れ体制も整った。地域の医療機関との緊密な連携の下、地域医療支援病院としての機能も果たすようになった。以上の医療機能を踏まえ、将来の専門分野にかかわらず、全ての患者の初期診療が適切に行えるとともに、医療の社会的な意義を自覚し、生涯にわたって研鑽を怠らない医療人となることを研修目標とする。

#### 〔一年目〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
A	内科系						外科系			救急部		
B	内科系						救急部			外科系		
C	外科系			救急部			内科系					
D	救急部			外科系			内科系					

ローテーションはA～Dより選択する。

内科系：(呼吸器、循環器、消化器、糖尿病内分泌代謝、神経内科、腎臓内科、血液内科、膠原病リウマチ内科) より適宜選択。

外科系：外科、整形外科、脳神経外科から選択。

救急部：挿管などの手技修得のため一部麻酔科で研修。

#### 〔二年目〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
A	小児	産婦	精神	地域	選択科							
B	小児	産婦	選択科			精神	地域	選択科				
C	選択科			精神	産婦	選択科			地域	小児	選択科	

この表は組み合わせの例である。

地域医療：津久井赤十字病院ならびに県立藤野診療所など山間部での地域医療研修。

選択科：内科系各科、外科、救急部(救急救命センター)、麻酔科、小児科、産婦人科、精神科、脳神経外科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、放射線科、形成外科、緩和ケア科から自由に選択。

一年目：救急部で救急医療の基本と実践(バイタルサインの把握、救命処置、蘇生法等)を行う。外科系では、創傷処置や簡単な手術経験をとうして切開、縫合、止血等の基本手技を習得する。内科は、頻度の高い疾患を中心に経験し、内科診療の基本を学ぶ。希望者は、二年目研修予定の小児科及び産婦人科研修を最長3ヶ月を限度に、前倒しで研修することができる。

二年目：選択した科において一年目で経験出来なかった、より専門性の高い検査手技や治療法を含めた内容の診療を行う。地域医療は山間部診療所を中心に地域医療を学ぶ。小児科では、一般的な疾患、救急を習得。精神科は、精神医学的面接、基本的精神病状の把握について学ぶ。産婦人科では、正常分娩の介助、婦人科診察の基本を中心に研修する。

### 【到達目標】

#### I 医師としての基本的態度の養成

- ①患者および家族に対する基本的態度、対応のしかたを学ぶ。
- ②患者に対して病状や治療方針を分かりやすく説明できる。
- ③患者とその家族の思いを傾聴できる。
- ④重要な医事法規を理解する。

#### II 診療行為をとおして以下の臨床能力の養成

- ①病態に対する観察力
- ②病歴を的確に聴取する能力
- ③診察の基本的手技の習得
- ④外科系基本手技の習得
- ⑤救命処置の習得
- ⑥適切な検査を選択する能力
- ⑦基本的検査技術の習得
- ⑧患者の病態についての情報を総合的に判断し疾患を診断する能力
- ⑨必要に応じて他の専門医に適切に相談できる能力
- ⑨患者の背景を考慮し適切な治療法を選択する能力
- ⑩要点を得た診療録及び各種診断書の作成能力
- ⑪経験症例を呈示、発表する能力
- ⑫地域医療および病診連携の重要性の理解

## 必修科研修要項

### 内科系

#### 一般内科、神経内科

##### 【一般目標】

生活習慣病を始めとする日常診療の場で頻度の高い疾患の診断・治療とその経過観察を通して全人的医療を行い、医師としての基本的態度を習得する。

##### 【個別目標】

1. 主訴、病歴、患者の背景(家族歴や生活歴など)を的確に聴取できる。
2. 基本的診察手技を習得する。(別項 b)
3. 診断に必要な検査を選択もしくは実施できる。(別項 c)
4. 普遍的疾患の診断ができる。(別項 a)
5. 基本的な治療を実施できる。(別項 d)
6. 4. 5. について適切にコンサルテーションができる。
7. 経験症例をまとめ考察し呈示できる。
8. 病診連携、介護担当者との連携ができる。
9. 適切な診療録・診断書が作成できる。

##### 【研修内容】

###### a. 研修対象疾患

脳神経系疾患：脳血管障害、パーキンソン病、痴呆

内分泌代謝性疾患：糖尿病、脂質異常症、甲状腺機能異常症、下垂体副腎疾患、カルシウム代謝異常、低血糖

腎疾患：タンパク尿、血尿、ネフローゼ症候群、腎不全 急性腎炎、慢性腎炎、高血圧、尿路感染症、電解質異常

リウマチ系疾患：関節リウマチ、全身性エリテマトーデス

血液疾患：貧血、血小板減少症、DIC、悪性リンパ腫、白血病

感染症：ウイルス性感染症（伝染性単核球症、インフルエンザ、麻疹等）細菌性感染症（敗血症、腎盂炎、脳髄膜炎）

###### b. 診察手技

神経学的所見の取り方

リンパ節の触診

甲状腺の触診

皮診の診かた

胸部の聴診

腹部の触診

筋関節所見の取り方

浮腫のみかた

叩打痛の取り方

###### c. 検査手技・結果の理解

血液像の診かた  
血液ガスの採取  
血液および各種培養検体の採取  
血糖測定  
眼底検査  
腰椎穿刺  
骨髄穿刺  
頭部CT読影  
脳波の読み方  
尿検査の診かた  
腎生検

d. 基本的治療

食事療法：カロリー、塩分、蛋白量の設定、経管栄養など

輸液療法：電解質補正、高カロリー輸液

インスリン療法：インスリン製剤の選択、投与量の決定

抗生剤療法：適切な選択と使い方

ステロイド療法：投与量、副作用対策

化学療法：併用療法の選択、副作用対策

輸血療法：交差試験の実際、成分輸血の適応

胃洗浄

血液浄化療法（透析）：緊急導入法、維持透析導入基準、体外循環法などについての基礎的知識

【研修方略】（ ）は個別目標番号

1. ガイダンス：インフォームド・コンセント・院内感染対策・抗生剤療法等（1,6）
2. 病棟での研修（上級医とペアで担当医となる）（1～9）
3. 外来での研修（上級医の指導下で新患患者・救急患者を担当する）（1～6）
4. カンファレンス：症例発表（7）
5. 検査室実習：末血検査・心電図・超音波・CT読影（3）
6. 抄読会（7）

【研修評価】

1. 指導医による観察（診察態度、手技、カンファレンスにおける発表の評価など）
2. EPOCシステムによる経時的評価を行う。
3. 口頭試問、レポート筆記試験等の評価も随時行う

**呼吸器科**

【一般目標】

呼吸器疾患に対する診療の能力を身につけるため、代表的な呼吸器疾患に関する診察法、検査、手技、治療法などを習得する。

【個別目標】



1. 主訴、病歴、患者の背景（家族歴、既往歴、喫煙歴、職業歴、動物飼育歴など）を的確に聴取できる。
2. 種々の呼吸器症状を呈する疾患を列挙できる。（別項 a）
3. 呼吸器疾患の診療に必要な診察手技を取得する。（別項 b）
4. 呼吸器疾患の診断に必要な検査を選択もしくは実施できる。（別項 c）
5. 検査結果を正確に解釈し、鑑別診断ができる。（別項 a）
6. 代表的な呼吸器疾患の治療を実施できる。（別項 d）
7. 終末期医療において、患者及び家族に対する精神的ケアの必要性を理解する。
8. 病診連携、介護担当者、ケースワーカーとの連携ができる。適切な診療録・診断書の作成ができる。
9. 経験した症例をまとめ考察し呈示できる。

### 【研修内容】

#### a. 研修対象疾患

肺癌、気管支喘息、COPD（慢性肺気腫、慢性気管支炎）、気管支拡張症、間質性肺炎（特発性、膠原病性、アレルギー性、薬剤性）、呼吸器感染症（急性気管支炎、細菌性肺炎、肺結核、肺真菌症など）、胸膜炎、肺血栓塞栓症、肺水腫、自然気胸、過換気候群

#### b. 診察手技

胸部の視診・触診・打診・聴診

#### c. 検査手技・結果の理解

動脈血の採取と動脈血液ガスの解釈

肺機能検査

胸腔穿刺の手技と胸水検査の解釈

胸腔内カテーテルの留置

気管挿管の手技

胸部レントゲン読影

胸部 CT 読影

胸部超音波検査

胸部 MRI、肺血流シンチグラム、Ga シンチグラム

気管支鏡検査

胸腔鏡検査

#### d. 基本的治療

呼吸器症状に対する投薬：気管支拡張剤、鎮咳剤、去痰剤などの選択

吸入療法：適応と薬剤の選択

酸素療法：適応と投与方法

人工呼吸管理：適応とレスピレターの使い方

非侵襲的換気療法：適応と方法

抗生剤療法：適切な選択と使い方

ステロイド剤療法：適応、投与量、副作用対策

抗癌剤療法：適応、投与量、副作用対策

【研修方略】（ ）は対応する個別目標番号

1. ガイダンス：インフォームドコンセント・院内感染対策・抗生剤療法・抗癌剤療法・放射線療法など（1）
2. 病棟での研修（上級医とペアで担当医となる）（1～9）
3. 外来での研修（上級医の指導下で新患患者・救急患者を担当する）（1～6）
4. カンファレンス：症例発表（9）
5. 検査室実習：肺機能検査・超音波検査・胸部 CT 読影・気管支鏡検査・胸腔鏡検査（4）
6. 抄読会（9）

【研修評価】

1. 指導医による観察（カンファレンスにおける発表の評価など）
2. EPOC システムによる経時的評価

## 消化器科

【一般目標】

通常の日常診療にて遭遇することの多い消化器系疾患に対し基本的な診察・診断・治療につき習得する。

【個別目標】

1. 外来および入院を問わず豊富な症例に対峙し、自覚症状・病歴聴取・理学的所見などから必要とされる検査を取捨選択し鑑別していく能力を培う。
2. 緊急処置を必要とするような症例においては放射線科、内視鏡室、外科との緊密な連携の下に対応を会得する。
3. 病態に応じ治療を施行し、長期予後を考え合わせた治療計画を病診連携・在宅介護をふまえながら検討する。
4. 原則的に研修医は担当患者の検査に参加することを必須とする。
5. 毎週の入院患者症例検討会にて問題点の検討をおこなう。
6. 適切な診療要約を作成する。
7. 内科系各科や外科との合同カンファレンス、また、CPCや病病連携・病診連携カンファレンスには積極的に参加する。
8. 将来的に消化器病学を志す研修医に対しては上部消化管内視鏡検査に習熟の後、CF・ERCPなどの研修を認める。
9. 消化器疾患に対する診断・治療は急速な進歩をとげているが、研修にあたっては各個人の状況に応じ消化管造影・超音波・CT・MRI・血管造影などの各種検査診断、また消化管疾患や肝胆膵疾患に対する内視鏡治療（EVL・EMR・EPBDなど）・Interventional Radiology（PTBD・TAE・RFA・BRTOなど）に参加し経験を積めるよう配慮する。

【研修内容】

1. 一般的事項

- a. 基本的検査, 処置: 腹部触診、直腸指診、単純X線読影  
救急処置一般、輸液, 輸血, 栄養管理
  - b. 一般的処置: 胃管、イレウス管挿入、浣腸、腹腔穿刺と排液
  - c. 薬物療法
2. 診断
- a. 血液, 尿, 便: 肝機能検査、肝炎ウイルスマーカー、膵機能検査  
免疫学的検査、腫瘍マーカー、便検査、細菌学・医動物学的検査
  - b. 消化管: X線検査、内視鏡検査
  - c. 肝, 胆, 膵, 腹腔: 超音波検査、CT、MRI、RI、ERCP、血管造影  
肝生検、膵外分泌機能検査、腹水の鑑別診断
3. 疾患, 治療
- a. 消化管
    - 食道: 食道炎、機能異常、良性腫瘍、悪性腫瘍、食道静脈瘤
    - 胃・十二指腸: 胃炎、潰瘍、良性腫瘍、悪性腫瘍、
    - 小腸・大腸: 腸管感染症、虫垂炎、炎症性腸疾患、憩室炎、虚血性腸炎  
薬剤起因性腸炎 腸閉塞、良性腫瘍、悪性腫瘍、過敏性腸症候群
    - 肛門: 痔核・痔瘻、裂肛
  - b. 肝, 胆道
    - 肝疾患: 急性肝炎、劇症肝炎、慢性肝炎、自己免疫性肝炎、原発性胆汁性肝硬変  
薬物性肝障害、アルコール性肝障害、脂肪肝、体質性黄疸、伝染性単核球  
症、肝硬変、肝癌、肝膿瘍、肝嚢胞
    - 胆道疾患: 胆石症、胆嚢炎・胆管炎、胆道腫瘍、膵胆管合流異常、原発性硬化性  
胆管炎、先天性胆道拡張症
    - 膵疾患: 急性膵炎、慢性膵炎、膵嚢胞性疾患、膵癌
    - 腹腔・腹壁疾患: 腹膜炎、癌性腹膜炎、結核性腹膜炎、ヘルニア

#### 【研修方略】

1. ガイダンス: インフォームド・コンセント・院内感染対策・抗生剤療法など。
2. 病棟での研修 (上級医とペアで診療)
3. 外来での研修 (上級医の指導のもと診療)
4. 担当症例などのカンファレンス
5. 検査実習: 血液検査・心電図・超音波・CT読影
6. 抄読会・手術症例病理カンファレンス・CPC

#### 【研修評価】

1. 指導医による観察
2. EPOCシステムによる評価

### 循環器科

#### 【一般目標】

心臓、中枢および末梢血管に関する疾患で日常臨床遭遇することも多い疾患の的確な

診断および治療を行い、その経過、予後を観察し全人的診療の視点を維持しつつ医師としての基本的姿勢を習得する。

#### 【個別目標】

1. 主訴、病歴、患者の背景（家族歴、既往歴等）を的確に把握できる。
2. 基本的診察手技を習得。
3. 診断に必要な検査を選択しそれを実施できる。
4. 一般臨床医として必要な基本的治療を実施できる。
5. 経験した症例を呈示できる。
6. 診連携の実践と、介護担当者との連携ができる。
7. 療録、診断書等の作成が適切にできる。
8. 緊急措置に必要な知識と基本的手技が実践できる。

#### 【研修内容】

##### a. 研修対象疾患

高血圧症

虚血性心疾患：急性心筋梗塞症、不安定狭心症、労作性狭心症

不整脈：心房細動、心房粗動、心房頻拍、発作性上室性頻拍症

WPW 症状群、心室頻拍

大血管疾患：動脈瘤、解離性大動脈瘤

末梢血管疾患：バージャー病

心筋疾患：肥大型心筋症、拡張型心筋症

##### b. 診察手技

心音聴収の仕方

胸部の触診

浮腫の見方

腹部の触診

##### c. 検査手技、結果の理解

動脈血液ガス採取

静脈血液採取

血糖測定

眼底検査

胸部レ線の見方

12誘導心電図の記録法と見方

胸部CTの見方

心臓超音波検査の仕方と見方

大腿静脈、鎖骨下静脈穿刺法による Swan-Ganz カテーテル検査の仕方とデータ解

積

心臓カテーテル検査の介助の仕方

運動負荷試験の仕方と解釈

d. 基本的治療

食事療法：塩分制限指導、飲水制限指導

輸液療法：脱水や電解質異常に対する補正

循環動態不安定例への心血管作動薬の投与

電氣的直流除細動

緊急一時ペーシングの方法

緊急心臓カテーテル治療の介助

不整脈発作に対する各種抗不整脈剤の投与

大動脈内バルーンポンピング法の介助

永久型ペースメーカー手術介助

【研修方略】

1. ガイダンス：インフォームド・コンセント、循環器薬剤使用法
2. 病棟での研修（上級医とペアで担当医となる）
3. 外来での研修（上級医の指導下で救急患者を担当）
4. カンファランス：症例検討
5. 検査室実習：心電図、心エコー、運動負荷試験、心臓カテーテル室
6. 抄読会

【研修評価】

1. 指導医による観察（カンファランスにおける行動等）
2. EPOC システムによる経時的評価

外科

【一般目標】

プライマリーケアの基本的な診療能力を身につけるため代表的な外科的疾患に関する診察法、検査、手技、術前・術後管理等を経験する。

【個別目標】

1. 代表的な外科疾患患者を診察し、正確に所見がとれる。
2. 種々の症候、症状を呈する疾患を列挙できる。
3. 鑑別診断に必要な検査法の適応を判断し、選択できる。
4. 基本的な検査法の手順を理解し、指導医の下で実施できる。
5. 検査結果を正確に解釈し、鑑別診断できる。
6. 代表的な外科疾患の適切な術前・術後検査と治療計画が立てられる。
7. 代表的な外科疾患の術前・術後管理が出来る。

8. 主な外科手術術式を理解し、各症例の手術適応を理解できる。
9. 検査・治療に関する適切なICが理解できる。
10. 手術所見を正確に把握し、術式の選択が理解できる。
11. 術後合併症の予防と治療について理解できる。
12. 終末期医療を経験し、患者と家族の心のケアの必要性を理解できる。
13. 退院後に必要な療養に関して理解できる。
14. 症例報告、発表ができる。

#### 【研修内容】

##### a. 研修対象疾患

表在疾患：外傷、皮膚・皮下良・悪性疾患、ヘルニア、肛門疾患など  
 乳腺・甲状腺疾患：乳癌、甲状腺癌、乳腺・甲状腺良性疾患など  
 消化器疾患：食道・胃・小腸・大腸疾患、肝・胆・膵疾患など  
 その他：肺疾患、下肢静脈瘤など

##### b. 診察手技

体表の診察（視・触診）  
 胸腹部の診察（視・聴・触・打診）

##### c. 検査手技・結果の理解

血液、体腔液の採取と結果の解釈  
 各種カテーテル・チューブの留置  
 単純X線フィルムの読影  
 造影（消化管、血管）の手技と読影  
 US、CT、MRI、RIなどの読影

##### d. 治療

保存的治療：輸液、薬剤、カテーテル・チューブなど  
 手術療法：根治的、姑息的  
 化学療法：適応と手順、副作用の理解  
 放射線治療：適応、副作用の理解  
 重症疾患に対する集中治療：呼吸、循環、障害臓器の管理、治療

#### 【研修方略】

LS	SBO 番号	方法	場所
1	1,3,5,6,9	研修	外来診察室
2	1,3,5~9,11~13	研修	病棟
3	4	研修	検査室
4	2,3,5,6,8	講義	CR
5	10	研修	手術室
6	14	発表	症例検討会、研究会

#### 【研修評価】

1. 指導医による観察記録・口頭試問・レポート
2. EPOCシステムによる形成的および総括的評価

## 麻酔科

### 【一般目標】

主として手術室での麻酔業務に携わることによって生体機能制御の方法を習得し、その理論的背景となる解剖学、生理学、薬理学などの知識の再確認も行う。さらに、呼吸や循環の管理方法の基礎も学び、他分野での診療に活用できるようにする。  
なお、機会に恵まれた場合には緩和医療や救命救急、ならびに集中治療の領域での診療方法をも習得する。

### 【個別目標】

1. 麻酔に関連しての事前患者評価が的確に行える。
2. 患者評価と予定される術式から、好適な麻酔方法を選択できる。
3. 各種麻酔方法の理論を理解している。
4. 麻酔方法とそのリスクについて患者に説明ができる。
5. 麻酔に関する基本的手技が行える。
6. 麻酔中の生体侵襲について、その対処方法とともに理解している。
7. 手術室における患者の全身状態を各種のモニターや検査により評価・解釈できる。
8. 手術室における患者の全身状態の変化に際し、適切かつ迅速に対処できる。
9. 術者や看護スタッフとの円滑な業務連携ができる。
10. 麻酔前から麻酔後に至るまで患者の精神的ケアを実践できる。
11. 麻酔記録を適切に作成できる。
12. 麻酔後の患者評価および必要な処置を的確に行える。

### 【研修内容】

- a. 研修対象疾患  
各診療科の扱う疾患のうち、以下の麻酔方法を選択できる症例を対象とする。  
全身麻酔・脊髄くも膜下ブロック・硬膜外ブロック・静脈麻酔  
および、これらの組み合わせ
- b. 診察手技  
呼吸器系の診察  
循環器系の診察  
中枢神経系の診察
- c. 検査手技・結果の解釈  
心電図の計測とその解釈  
単純X線写真の読影  
血液検体の採取と検査結果の解釈（動脈・静脈）  
観血的動脈圧測定と圧波形の解釈  
パルスオキシメトリーとその解釈  
カプノグラムの計測とその解釈  
呼吸機能検査とその解釈
- d. 治療

輸液管理：投与経路の確保，製剤の選択，投与速度の調節  
薬物療法：投与方法の選択，投与量の決定，投与速度の調節，副作用への対処  
輸血療法：血液製剤の選択，投与量の決定  
気道確保：フェイスマスク法，気管挿管，ラリンジアルマスク挿入  
呼吸管理：用手換気，人工換気，換気量の調節  
循環管理：血圧異常への対処，脈拍異常への対処，不整脈への対処  
体温管理：放熱防止処置，体温異常への対処  
神経ブロック：脊髄くも膜下穿刺，硬膜外カテーテル留置  
救急蘇生：心マッサージ，除細動器の使用，薬物療法など  
集中治療：人工呼吸器の設定，水分補正，栄養管理など  
疼痛緩和：治療計画の立案，治療効果の評価など

### 【研修方略】

( ) は対応する個別目標番号

1. 病棟での研修Ⅰ：麻酔前診察 (1, 2, 4, 10)
2. 病棟での研修Ⅱ：麻酔後診察 (1 2)
3. 手術室での研修：麻酔の実践 (3, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11)
4. カンファレンスⅠ：麻酔前の症例検討 (1, 2)
5. カンファレンスⅡ：麻酔後の症例検討 (1 2)
6. 自己学習：レポート作成 (3, 6, 7)

### 【研修評価】

1. 指導医による観察：診療状況およびレポート内容から評価
2. EPOCシステムによる評価

## 救急

### 【一般目標】

日常臨床の場で頻度の高い救急疾患に適切に対処できる能力を養う。

### 【個別目標】

1. バイタルサインが取れる。
2. 重症度の判定ができる。
3. 緊急度が判断できる。
4. 救命のための治療手技ができる。
5. 診断に必要な検査を選択できる。
6. 症状から初期の鑑別診断ができる。
7. 専門医にコンサルテーションできる。

### 【研修内容】

#### a. 対象となる症状

意識障害  
痙攣発作  
ショック  
呼吸困難



胸痛  
急性腹症  
消化管出血  
外傷

b. 治療手技

血管確保  
気道確保  
気管内挿管  
除細動  
心臓マッサージ  
外傷処置

【研修方略】

1. 日中の救急当番（上級医とのペア）（1～6）
2. 当直（上級医とのペア）（1～6）
3. 麻酔科研修（2, 3）

【研修評価】

1. EPOC システムによる経時的評価
2. 指導医による観察

**小児科**

【一般目標】

1. 小児科の特徴である成長・発達を念頭に置き、主要な症状・所見の病態生理を修得する。
2. 小児の代表的疾患の診断、治療、予防の基本的技能を修得する。
3. 小児の救急疾患の特性を知り、年齢と重症度に応じた適切な処置を研修する。

【個別目標】

1. 児の人格と人権を尊重できる。
2. 患者およびその家族と好ましい信頼関係を作り、説明と同意を基本的態度として患者およびその家族に対して教育できる。
3. 患児およびその保護者から有用な病歴を得ることができる。
4. 年齢的特性、全身を考慮した正しい手技による診察ができる。
5. 小児に主要な症状・所見の病態生理を修得する。
6. 代表的疾患の性・年齢・重症度に応じた適切な治療計画を速やかにたて、実施できる。
7. 発達薬理学的特性を理解し、小児の一般的薬剤を処方、服薬指導できる。
8. 小児の成長と発達の基本を理解し評価できる。
9. 診療録の記載は、POMR を基本とし、退院要約を適切に作成できる。
10. 基本的診療技能（注射、静脈点滴、採血、導尿、腰椎穿刺、骨髄穿刺、胃洗浄等）を修得する。

- 1 1. 基本的臨床検査を自ら実施し理解できる。(心電図、脳波、内分泌負荷試験等)
- 1 2. 基本的画像診断を自ら実施あるいは指示し理解できる。(胸部・腹部・頭部・四肢 X線・CT・MRI・IVP・VCG、上部消化管造影、心・腹部エコー等)
- 1 3. 小児の救急疾患の特性を知り、重症度を的確に判断し、速やかに適切な処置ができる。
- 1 4. 小児に必要な予防接種を理解し実施できる。経験症例をまとめ考察し呈示できる

**【研修内容】**

1. 指導医について一般外来診察を行う。(週 2 回)
2. 専門外来(神経、免疫・アレルギー、循環器)を適宜見学し、指導医について各分野の知識を深める。(週 2-3 回)
3. 予防接種外来、乳児健診外来につく。(週 1-2 回)
4. 小児科一般病棟で、指導医とともに 5 名程度の受持ち医となり診療にあたる。(毎日)
5. 新生児病棟で、指導医について新生児診療にあたる。(毎日)
6. 日勤帯の救急外来で、指導医について救急診療にあたる。(毎日)
7. 指導医について月数回の小児科研修医当直を行い、小児の救急疾患の診療を研修する。
8. 小児科抄読会・小児科病棟カンファレンス(週 1 回)、小児科勉強会(月 1 回)に参加する。
9. 院内学術講演会、CPCに参加する。
10. 院外の学会・研究会等に参加、発表する。

**小児科週間スケジュール**

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
月曜日	病棟回診						乳児健診 アレルギー			勉強会		
火曜日	病棟回診						予防接種・神経					
水曜日	外来						アレルギー			抄読会		
木曜日	病棟回診						アレルギー 循環器					
金曜日	病棟回診						乳児健診・神経					

**【研修方略】** ( ) は対応する個別目標番号

1. ガイダンス: インフォームド・コンセント・院内感染対策・抗生剤療法等(1~4, 6, 7)
2. 病棟での研修(上級医とペアで担当医となる)(1~13)
3. 外来での研修(上級医の指導下で新患患者・救急患者を担当する)(1~14)
4. カンファレンス: 症例発表(1, 5)
5. 検査室実習: 末梢血検査・心電図・超音波・CT 読影(11)
6. 抄読会(1, 5)

## 【研修評価】

1. 導医による観察（カンファレンスにおける発表の評価など）
2. EPOC システムによる経時的評価

## 産婦人科

### 【一般目標】

1. 妊娠・分娩経過について理解する。
2. 産婦人科救急疾患のプライマリ・ケアについて理解し実施できる。
3. 新生児の診察及びプライマリ・ケアについて理解し実施できる。

### 【個別目標】

1. 問診及び産婦人科診察
  - ・産婦人科診療の問診、基本的な診察が行えて、診断し、その説明が出来る。
  - ・緊急性を要する疾患に関しては指導医に委ねる状況を的確に判断できる。
2. 産婦人科検査、診断
  - ・内診、外診、超音波検査（経腹・経膈）、細胞診など
  - ・診察に必要な検査を実施あるいは依頼できる。
  - ・検査結果について評価・説明が出来る。
  - ・診断への所見の理解
3. 産婦人科治療
  - ・正常分娩・産褥の管理ができる。
  - ・帝王切開の介助ができる。
  - ・分娩時などの急変時に対応がとれる。
  - ・流産処置、切迫早流産の治療ができる。
  - ・婦人科手術（腹式・膈式子宮単純全摘術など）の介助。
  - ・悪性腫瘍の治療、癌の化学療法、薬の理解や副作用対策
4. その他
  - ・不妊症・更年期障害などの婦人科特有の内分泌疾患の理解を深める。
  - ・薬剤、放射線、その他の要因の胎児・新生児への影響について理解を深める。

### 【研修内容】

- a. 診察手技：問診、一般身体所見、内診・外診
- b. 検査手技
  - 細胞診・組織診の実施方法
  - 超音波検査（腹部・経膈）、羊水穿刺、ダグラス窩穿刺
  - 胎児心拍モニター検査
  - MRI・CT検査、
- c. 治療手技
  - 分娩介助(正常分娩)、分娩介助助手（異常分娩）

婦人科処置（内診台）、使用する器具の理解  
手術介助

#### 【研修方略】

1. 希望者においては、二年目研修予定である産婦人科での研修を一年目に2ヶ月、前倒しで研修することを可とする。
2. 指導医の下、産婦人科外来診療に携わる。
3. 指導医とペアとなって病棟の患者の主治医となる。
4. 適宜、分娩時には立ち会い、更には直接の分娩介助を指導医と共に行う。
5. 産婦人科手術の助手として参加する。
6. 少なくとも週1回は指導医と共に当直を行い、分娩・緊急手術及び産婦人科救急患者の診察・治療を行う。
7. 毎日、主治医としての担当患者の回診と週1回は総回診に参加する。
8. 院内の医局会・CPCなどに参加する。
9. 産婦人科の学会などに参加する。

#### 【研修評価】

1. 指導医による観察・口頭試問
2. EPOCによる評価

### 精神科

#### 【一般目標】

精神科診療の基本とその特殊性を理解し診療にあたることを習得する。

#### 【個別目標】

1. 病歴の取り方と記載の仕方の習得
2. 精神医学的面接のすすめ方の習得
3. 基本的精神状態像と主要な精神障害を理解できる。
4. 基本的な精神科薬物療法ができる。
5. 精神保健福祉法の概略を理解できる。
6. チーム医療が進められる。
7. 家族への対応ができる。
8. 入院と退院の時期の判断ができる。
9. 心理検査の進め方と解釈ができる。
10. 人権への配慮ができる。

#### 【研修内容】

- a. 主な精神状態像： 神経症様状態（不安、恐怖、心気、強迫、解離、転換、離人）  
抑うつ状態、躁状態、幻覚妄想状態、精神運動興奮状態  
昏迷状態、意識障害、知能障害、人格の病的状態
- b. 主な精神障害： 器質性精神障害、精神作用物質関連障害、総合失調症（精神分裂病）、気分（感情）障害（うつ病、躁うつ病を含む）

### 神経症性障害、人格障害

c. 主な検査法： 臨床心理検査（知能検査、性格検査）、神経心理学的検査  
脳波検査、頭部CT・MRI検査

d. 主な治療法： 個人精神療法、精神科薬物療法、心理社会療法

#### 【研修方略】

1. 精神科臨床について10-15回の小講義を行う。（精神科診療の心得と精神保健福祉法、精神診断学と国際分類、主要な精神障害、精神科薬物療法、心理社会療法等）
2. 入院診療：5A病棟に配属し、指導医のもとに5名前後の患者を受け持つ。
3. 外来診療：週3回指導医と新患を診察する。うち1回はもの忘れ専門外来とする。
4. 病棟当直：週1回深夜輪番日は自宅待機し、精神科3次救急が発生した場合は登院して当直指導医から精神科救急医療の指導を受ける。
5. 身体合併症対応：精神科病院からの身体合併症例の受入を指導医とともに行う。
6. 病棟カンファランス等：週1回の回診・症例検討会、月1回の勉強会等に参加する。

#### 【研修評価】

1. 指導医による評価
2. EPOCによる評価

#### 地域医療

地域医療研修は、津久井赤十字病院ならびに神奈川県立診療所（藤野・青野・千木良）にて行う。それぞれ、各協力病院・施設のプログラムで実施する。

## 選択科研修要項

### 脳神経外科

#### 【一般目標】

プライマリ・ケアの基本的な診療能力を身につけるため代表的な脳神経外科疾患に関する診察法、検査、手技、術前・術後管理等を経験する。

#### 【個別目標】

1. 代表的な脳神経疾患の患者を診察し、正確に神経学的所見がとれる。
2. 種々の症候・症状を呈する疾患を列挙できる。
3. 鑑別診断に必要な検査法の適応を判断し、選択できる。
4. 基本的な検査法の手順を理解し、指導医の下で実施できる。
5. 検査結果を的確に解釈し、鑑別診断を下せる。
6. 代表的な脳神経外科疾患の適切な術前・術後検査と治療計画が立てられる。
7. 代表的な脳神経外科疾患の術前・術後管理ができる。
8. 主な脳神経外科手術の術式を理解し、各症例の手術適応を理解できる。
9. 検査・治療に関する適切なインフォームド・コンセントが理解できる。
10. 手術所見を正確に把握し、術式の選択が理解できる。
11. 術後合併症の予防と後遺症の予測、その治療について理解できる。
12. 神経学的脱落症状に対して、適切なリハビリテーション計画が立てられる。
13. 肢体不自由の医療を経験し、患者と家族の心のケアの必要性を理解できる。
14. 退院後に必要な療養、公的扶助の利用法について理解できる。

#### 【研修内容】

##### a. 研修対象疾患

頭部外傷・脳血管障害・脳腫瘍・神経系の先天奇形

脊椎・脊髄疾患（主として頸椎レベル）

その他：変性疾患・不随意運動（顔面けいれん・眼瞼けいれん）など

##### b. 診察手技

神経学的診断法

##### c. 検査手技・結果の理解

血液・脳脊髄液の採取と結果の解釈

CT・MRI・SPECT・頭部単純X線の読影

脳血管撮影の適応と手技の理解、読影

##### d. 治療

保存的治療：輸液、薬剤など

手術療法：根治的、姑息的それぞれの適応、合併症、予後などの理解

免疫・化学療法：適応と手順、副作用の理解

放射線療法：分割照射、γナイフの適応と合併症の理解

重症例に対する集学的治療：呼吸、循環、障害臓器の管理と治療

リハビリテーション：適応、プログラムとゴールの設定

### 【研修方略】

LS	SBO 番号	方法	場所
1	1, 3, 5, 6, 9	研修	外来診察室
2	1, 3, 5~9, 11~14	研修	病棟
3	4	研修	病棟・検査室
4	2, 3, 5, 8	講義	カンファレンスルーム
5	8, 10, 11	研修	手術室
6	6, 11~14	研修	リハビリテーション室

### 【研修評価】

- 1 指導医による観察記録・口頭試問・レポート
- 2 EPOC システムによる形成的および総括的評価

## 整形外科

### 【一般目標】

最近の厚生労働省統計によると、外来受診者数は消化器疾患 19%、循環器疾患 15% に次いで、運動器疾患は 13% と第 3 位であることからわかるように、運動器に障害を有する国民が増加している。なかでも高齢人口が増加する中で、骨粗鬆症、変形性関節症などによって骨・関節機能に何らかの障害を有する高齢者の増加が著しい。整形外科臨床研修では、研修の「到達目標」である「医療人として必要な基本的姿勢と態度、すなわち（1）患者—医師関係、（2）チーム医療、（3）問題対応能力、（4）安全管理、（5）医療面接、については必修科目の研修で習得されているわけであり、この基本的な研修成果の上に短期間ではあるが、整形外科に特有の検査法、疾患の病態、診断手順、治療における考え方、基本手技を習得する。引き続き整形外科を専攻する場合には入門的な研修の場となる

### 【個別目標】

1. 整形外科的診察法の習得：関節可動域、徒手筋力検査法など
2. 検査法の習得：単純 X 線、CT、MRI、シンチグラム、断層 X 線、筋電図、脊髄・関節造影検査など
3. 代表的な整形外科疾患の理解。  
外傷性疾患：骨折、脱臼、捻挫、腱断裂  
関節疾患：変形性関節症、肩関節周囲炎、関節リウマチ  
脊椎及び脊髄疾患：椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、変形性脊椎症  
感染性疾患：化膿性関節炎、骨髓炎、化膿性脊椎炎、骨関節結核  
先天性疾患：先天性股関節脱臼、斜頸、内反足  
代謝、変性疾患：痛風、骨粗鬆症  
腫瘍性疾患：良性及び悪性腫瘍  
血管性疾患：糖尿病性壊死、ASO、TAO
4. 基本的処置法の習得。

創傷処置、デブリードマン、ギブス・シーネ固定、各種スプリント固定  
直達牽引、介達牽引、関節穿刺、関節注射

5. 基本的治療法の習得。

骨折や脱臼の徒手整復及び固定、各種保存療法、各種手術療法、リハビリ療法

6. 整形外科的リハビリテーション法の習得。

代表的整形外科疾患に対する運動療法と理学療法、術前および術後のリハビリテーション

**【研修方略】**

1. 週2回程外来にて指導医のもとに外来診療および処置を担当する。
2. 病棟にて入院患者の受け持ち医となり指導医のもとに診療にあたる。
3. 検査室にて整形外科的特殊検査の担当または介助にあたる。
4. 手術室又は外来処置室に指導医のもと簡単な手術手技を習得する。
5. 手術の助手を務める。
6. 各種のカンファレンスに参加し研修成果の発表、症例検討を行う。

**【研修評価】**

1. 指導医による観察記録・口頭試問・レポート
2. EPOCシステムによる形成的および総合評価

**眼科**

**【一般目標】**

1. 各種眼科疾患を理解する。
2. 眼科の基本的診察ができる。
3. 主要な眼科検査法を学ぶ。

**【行動目標】**

1. 各種眼科検査・診断法ができる。  
視力・屈折検査、眼位、眼球運動の検査、細隙灯顕微鏡検査、眼圧検査、眼底検査、視野検査、蛍光眼底造影検査など
2. 眼科基本処置を習得する。  
点眼、洗眼、涙嚢洗浄など
3. 眼科救急処置ができる。  
各種眼科疾患について理解を深め、基本的対処法を学ぶ。
4. 感染症（得に流行性角結膜炎）に対する対処が適切に行える。
5. 外眼部疾患の基本手技、顕微鏡下手術、光凝固術に対する理解を深める。また、周術期管理について学ぶ。

**【研修方略】**

1. 指導医の下に外来診療を担当する。
2. 病棟にて指導医と共に入院患者の主治医となり、診療に携わる。
3. 眼科検査、処置に習熟する。
4. 眼科手術の助手として参加する。



5. 当直を行い、眼科救急の基本処置ができるようにする。
6. 院内・外の各種カンファレンス、研究会、学会に参加・発表する。

\* 眼科スケジュール

午前：外来診療

午後：各種検査、手術（手術は週2日）

【研修評価】

1. 指導医による観察
2. EPOCによる。

**耳鼻咽喉科**

横浜市立みなと赤十字病院耳鼻科は日本で唯一のめまい、平衡領域の専門耳鼻科であり、めまい診療を柱に年間1000症例以上が入院する環境である。

【一般目標】

耳鼻咽喉科の領域疾患、つまり感覚情報器官という特殊性と呼吸器、消化器疾患との関わりが深い領域であることを考えながら、その特殊性を把握し、治療方針をたてることができるようにする。

【行動目標】

1. 耳鼻、咽喉の所見を額帯鏡と耳鼻咽喉科の各種医療器具を用いて所見を取れるようにする。
2. 代表的疾患の診断と治療ができるようにする。（別項a）
3. 検査の実施と所見判定をできるようにする。
4. 基本的手術に関して習得させる。

【研修方略】

1. 指導医の下で外来診療、検査、処置に携わる。
2. 指導医の下で入院患者診療、検査、処置に携わる。
3. 手術の助手として経験を積ませる。
4. 月2回程度の当直を通して、救急患者の治療を学ぶ
5. 病棟CRでの講義
6. 研究会、症例検討会での発表
7. 地方部会に参加、発表する機会を設ける。

\* 週間および一日のスケジュール

7:30～9:00 入院患者の処置、診療

9:00～外来診療

15:00～めまい検査、めまい入院患者の治療、リハビリ

水曜日：手術

【研修評価】

1. 指導医による観察記録、レポート、口頭試問
2. EPOCシステムによる評価

## 皮膚科

### 【一般目標】

一般医に求められる皮膚科学の習得、すなわち

1. 日常診療でよく遭遇する皮膚疾患の診断と治療ができる。
2. 皮膚科専門医に紹介すべき疾患を適切に診断することができる。

### 【個別目標】

1. 皮膚科の基本診断学、検査法を習得する  
問診の手順の理解と、必要事項の的確な記載  
皮疹の正確な記述、代表的な皮疹の鑑別  
診断に必要な検査法の理解と実施
2. 普遍的疾患の診断ができる
3. 基本的な治療を実施できる

### 【研修内容】

#### a. 研修対象疾患

湿疹・皮膚炎、蕁麻疹・痒疹・掻痒症、紅斑・紫斑群、熱傷・薬疹・中毒疹  
皮膚潰瘍・褥瘡、水疱症、炎症性角化症、膠原病および類症、色素異常症  
皮膚腫瘍、母斑、ウイルス・細菌・真菌感染症、付属器疾患（汗器官・脂腺・毛  
髪・爪甲）、寄生虫症・動物性皮膚疾患、性感染症、全身疾患と皮膚

#### b. 検査手技・結果の理解

理学的検査、アレルギー検査、皮膚生検、真菌検査（鏡検、培養）など

#### c. 基本的治療

全身療法

外用療法およびスキンケア

光線療法

冷凍凝固法

低出力レーザー療法

皮膚外科手術

### 【研修方略】

1. 午前中は毎日外来診療に立ち会い見学する。検査・皮膚処置の介助をする。研修期間後半では指導を受けながら外来診療に携わる。
2. 病棟では入院患者の主治医グループの一員として、指導医のもとに診療にあたる。
3. 主治医の患者・患者家族に対する病状・手術の説明に同席する。
4. 皮膚処置・包交を担当する。
5. 手術の助手を行う。研修期間後半では執刀も行う。
6. 皮膚科学会地方会などの院外活動にも参加する。

### 【研修評価】

1. 指導医による観察評価
2. EPOC システムによる経時的評価

## 皮膚科週間スケジュール

	9	10	11	12	13	14	15	16	17
月曜日	外来診療＋病棟回診					病棟処置	パッチテスト		
火曜日	外来診療＋病棟回診					病棟処置	手術（中央手術室）		
水曜日	外来診療＋病棟回診					病棟処置	手術（中央手術室）		
木曜日	外来診療＋病棟回診					病棟処置	手術		
金曜日	外来診療＋病棟回診					病棟処置	conference		
土曜日	病棟回診・処置					(学会・勉強会参加)			

## 泌尿器科

### 【一般目標】

- ・泌尿器科の代表的疾患を理解し、基本的な診断法、治療法を学習する。
- ・泌尿器科における救急疾患とその初期対応を学ぶ。
- ・患者との信頼関係を築くために何が必要かを学ぶ。

### 【個別目標】

1. 代表的な泌尿器科疾患患者を診察し、正確に所見が取れる。
2. 泌尿器科に必要な検査の意義を理解し、検査指示を適切に選択出来る。
3. 泌尿器科に必要な検査の結果を正確に解釈出来る。
4. 泌尿器科の基本的な検査法の手順を理解し、自ら実施、あるいは指導医の下で実地出来る。
5. 基本的な泌尿器科疾患の治療法を理解し、適切な術前・術後検査と治療計画が立てられる。
6. 代表的泌尿器科疾患の術前・術後管理が出来る。
7. 主な泌尿器科手術術式を理解し、各症例の手術適応を理解出来る。
8. 術後合併症の予防と治療について理解出来る。
9. 終末期医療を経験し、患者と家族の心のケアの必要性を理解出来る。
10. 退院後に必要な療養に関して理解出来る。
11. 症例報告、発表が出来る。

### 【研修内容】

#### a. 研修対象疾患

尿路性器感染症・尿路結石症・尿路性器腫瘍・種々の排尿障害・腎不全・尿路性器の外傷・尿路性器先天異常・男性不妊・性機能不全など

#### b. 診察手技

腹部・外陰部の診察（視・触診）

前立腺触診

#### c. 検査手技・結果の理解

尿沈渣・腎機能検査・精液検査・内分泌検査・CT/MRI・核医学検査・KUB

／ IVP・膀胱尿道撮影・膀胱造影・経腹的超音波検査（腎、膀胱、前立腺、陰嚢内臓器）・血管造影・逆行性腎盂造影・膀胱鏡検査・経直腸的超音波検査・尿流動態検査

d. 治療

保存的治療：導尿・膀胱洗浄・尿管カテーテル／ステント挿入・腎瘻・膀胱瘻造設

手術療法：開腹手術・腹腔鏡手術・内視鏡手術

化学療法：適応、手順、合併症の理解

放射線療法：適応、副作用の理解

重症疾患に対する集中治療：尿路管理と呼吸・循環障害との同時管理

【研修方略】

	8:30	9:00	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
月曜日	morning conference	病棟回診・結石破砕				結石破砕・検査							
火曜日	morning conference	病棟回診・結石破砕				手術							
水曜日	morning conference	病棟回診				検査							
木曜日	morning Conference	病棟回診				検査			他施設との合同				
金曜日	morning conference	病棟回診				手術							
土曜日	morning conference	病棟回診（学会・研究会参加）											

【研修評価】

1. 指導医による観察記録・口答試問・レポート
2. EPOCシステムによる形成的および総括的評価

**放射線科**

【一般目標】

臨床医として必要とされる画像診断及び放射線治療の基本的知識を身につける。

【個別目標】

1. 単純 X 線写真、CT の撮影を適切に指示できる。
2. 各種造影剤の適応と副作用を理解し、副作用発現時に対処することができる。
3. CT と MRI の主要変化を指摘できる。
4. 放射線の人体に対する影響と防護について述べるができる。
5. 放射線治療の適応について述べるができる。
6. 核医学検査の主な種類を述べるができる。

## 【研修方略】

1. 病診連携患者の病歴聴取・作成を行う。
2. CT と MRI の読影を指導医と共に行う。
3. 指導医と共に放射線治療の患者の診察を行う。
4. 核医学検査の読影を指導医と共に行う。

## 【研修評価】

1. EPOC システムによる。
2. カンファレンスでの発表。

## 形成外科

### 【一般目標】

形成外科とは「先天性または後天性の身体外表の形や色の変化（醜状）を対象とし、外科手技によって機能と形態解剖学的に正常にすることを手段として、個人を社会適応させることを目的とする」と教科書的には定義されている。一般的な認識としては、形成外科はキズアトを目立たなくする診療科である、といったところであろう。しかし、大学での独立講座が少なく、形成外科の講義も整形外科や皮膚科の中の 1 コマ程度しかない場合もあり、医療関係者でも明確な認識がなされていない現状がある。形成外科臨床研修では、形成外科の基本的な手術手技から応用、他科との関わりを通して、現代医療の中にある広範な形成外科の守備範囲を理解してもらうことを目標とする。引き続き形成外科を専攻する場合には入門的な研修の場となる

### 【個別目標】

1. 形成外科的診察法の習得：創傷・熱傷創の程度、顔面骨骨折の有無など。
2. 検査法の習得：術前検査、皮膚・軟部腫瘍の触診、XP、CT、MRI など。
3. 代表的な形成外科疾患の理解：

① 新鮮熱傷	② 顔面骨骨折、顔面軟部組織損傷
③ 唇裂・口蓋裂	④ 手足の先天異常・外傷・変形
⑤ その他の先天異常	⑥ 母斑・血管腫・良性腫瘍
⑦ 悪性腫瘍・それに関する再建	⑧ 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド
⑨ 褥瘡・難治性潰瘍	⑩ 美容外科
4. 基本的処置法の習得：  
創傷処置、デブリードマン、ステロイド注射など。
5. 基本的治療法の習得：  
皮膚縫合、植皮、簡単な皮弁など。

### 【研修方略】

1. 外来にて指導医のもとに外来診療および処置を担当する。
2. 病棟にて入院患者の受け持ち医となり指導医のもとに診療にあたる。
3. 検査室にて形成外科的特殊検査の担当または介助にあたる。
4. 手術室又は外来処置室に指導医のもと簡単な手術手技を習得する。

5. 手術の助手を務める。
6. 各種の研究会、学会に参加し、症例報告や臨床研究成果の発表を行う。

#### 【研修評価】

1. 指導医による観察記録・口頭試問・レポート
2. EPOC システムによる形成的および総合評価

### 緩和ケア科

#### 【一般目標】

悪性腫瘍患者の身体的特徴と精神的特徴を理解し、症状緩和のための基本的技術を習得する。

#### 【個別目標】

1. 緩和ケアにおける全人的視点を理解し、個々の症例に応用できる
2. 患者および家族と話し合いながら、終末期の療養計画を立てることができる
3. 癌性疼痛の評価を行い、治療計画を立てることができる
4. 悪性腫瘍に伴う疼痛以外の各種症状の評価を行い、治療計画を立てることができる
5. 聞き手の心理面に配慮しながら、患者および家族に対して病状や今後予想される経過について説明できる

#### 【研修内容】

- a. 研修対象疾患：各種悪性腫瘍
- b. 基本的治療：オピオイドをはじめ各種鎮痛薬の使用、その他の各種薬物療法

#### 【研修方略】

1. 指導医の下で入院患者の診療に携わる
2. カンファレンスでの症例提示
3. 指導医による講義
4. 抄読会

#### 【研修評価】

1. 指導医による観察
2. EPOC システムによる評価

横浜市立みなと赤十字病院

平成24年度事業計画書

「Ⅰ 医療提供計画書」

「6 外部委託」

(1) 外部委託業務

(医療法施行令に基づく8業種を中心)

## (1) 外部委託業務

	委託業務の名称	主な業務内容	受託者	
1	食事療養提供業務	患者用給食の調理、給食材料管理補助、食器洗浄等衛生管理補助、配膳・下膳業務	会社名	ハーベスト 株式会社
2	中央滅菌材料室・手術室器材の洗浄・滅菌業務	使用済器材の回収・洗浄・滅菌・供給業務	会社名	日本ステリ 株式会社
3	検体検査業務	検体検査業務	会社名	株式会社 ビー・エム・エル
4	患者用ベッド洗浄業務	ベッド等の清拭・定期点検業務	会社名	株式会社 柴橋商会
5	寝具賃貸借及び洗濯業務	患者用寝具・職員当直用寝具賃貸借業務、洗濯全般業務	会社名	株式会社 サン・ム・ランドリー
6	白衣等リース業務	看護師の白衣及びタオルのリース	会社名	株式会社柴橋商会
7	白衣等リース業務	看護師以外の白衣のリース	会社名	株式会社サン・ム・ランドリー
8	SPD物流管理サービス業務	医療材料の物流管理業務	会社名	丸紅ホスピタル・パートナーズ株式会社
9	医薬品院内物流管理業務	購買管理補助業務 薬品在庫管理業務 配置定数薬の補充管理業務 搬送業務、等	会社名	東邦薬品株式会社
10	医事関連業務	外来部門の計算・受付・クーラ業務及び保険請求関連業務	会社名	株式会社 アイ・エム・ビー・センター
11	院内保育所運営業務	職員子女の保育業務	会社名	株式会社 ホピンスコーポレーション
12	施設管理	施設設備の運転及び点検業務	会社名	株式会社 丸誠
13	警備業務	院内外の警備業務	会社名	国際警備 株式会社
14	清掃業務	外回り外来部門・病棟・手術室・事務室等院内清掃業務	会社名	株式会社 丸誠
15	産業廃棄物処理業務	院内から出されるゴミの収集運搬及び処理業務	会社名	株式会社 神奈川保健事業社
16	一般廃棄物収集運搬業務	院内から出されるゴミの収集運搬及び処理業務	会社名	株式会社 神奈川保健事業社
17	感染性廃棄物収集運搬処理業務	院内から出される感染性廃棄物の収集運搬及び処理業務	会社名	株式会社 トキワ薬品化工
18	医薬品（医療ガス）供給業務	医療用液体酸素・医療用液体窒素・医療用酸素ガス等の供給業務	会社名	株式会社 イワサワ
19	ナースコール設備保守点検	ナースコール設備保守点検	会社名	株式会社 ケアコム
20	院内ネットワークシステム保守点検	院内LANシステム保守点検	会社名	富士ゼロックス神奈川 株式会社
21	自動尿測定システム保守点検	自動尿測定システム保守点検	会社名	円田医科工業 株式会社



横浜市立みなと赤十字病院

平成24年度事業計画書

「I 医療提供計画書」

「7 情報管理」

(1) 管理責任体制・安全対策等

## 7 情報管理

### (1) 管理責任体制・安全対策等

ア 横浜市立みなと赤十字病院情報システム運用管理規程(20年度事業計画に同じ)

#### イ 安全対策

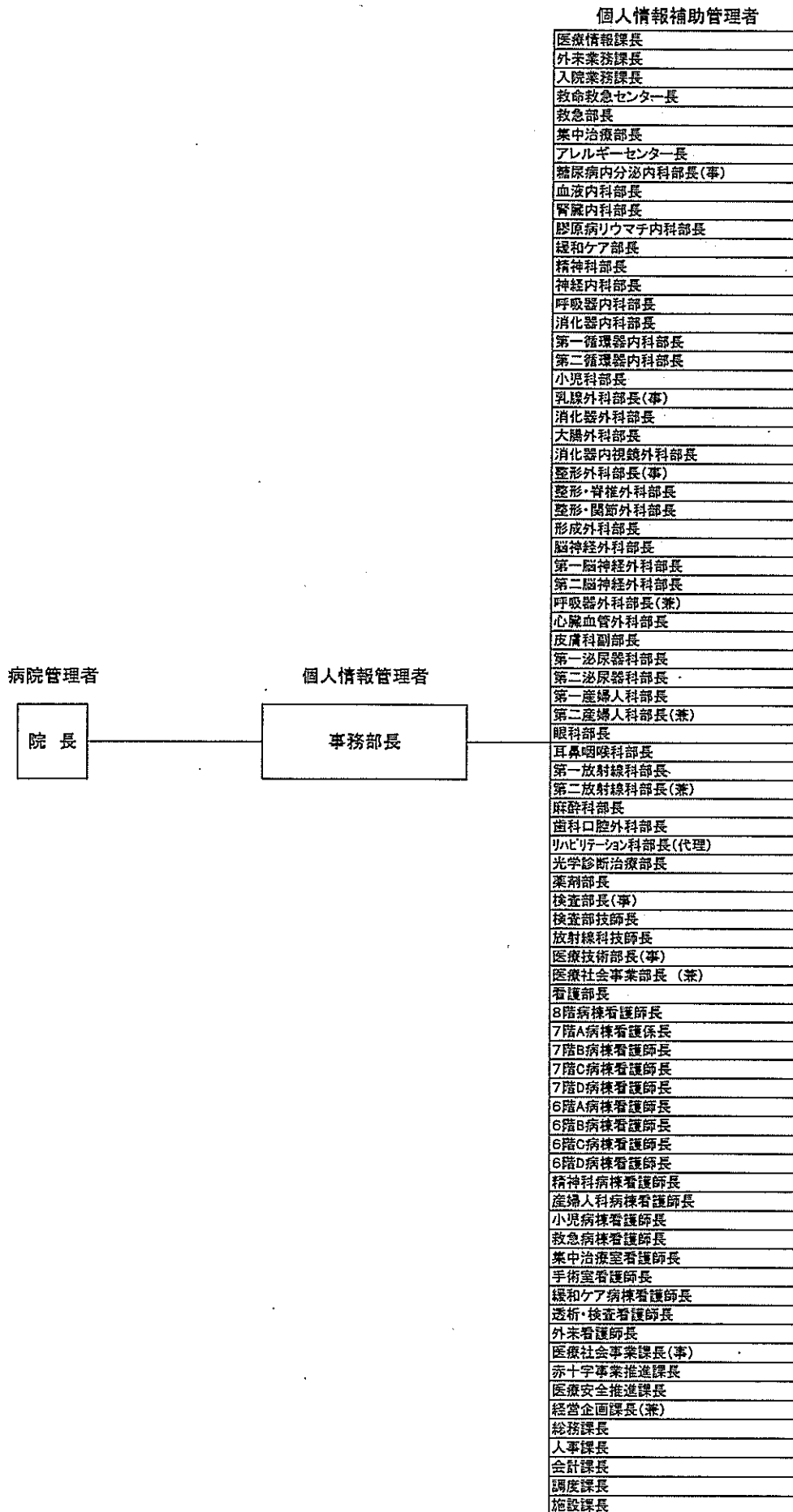
サーバー室の管理(入退室の規制)、防災防犯対策 ☆サーバー室の入退室管理については、出入管理システムにより個別カードを用いて入室が制限しております。また、サーバー室の隣に医療情報事務室があり事務室内を通らなければ、サーバー室に入室することは出来ず、さらに事務室内には 24時間365日人員の配置をしており防災及び防犯に努めています。

ウ 個人情報の管理責任体制(別添参照)

エ アクセス管理(職種別権限については別添職種別権限一覧参照)

#### 利用者IDとパスワード管理

- (ア) 利用者は、初期登録時において運用責任者より封印した紙で配布された中のパスワードを一時利用し、有効期限までに自らのパスワードを「パスワード変更ツール」にて設定する。
- (イ) 自分のパスワードは、決して他人又は他のグループに口外しない。
- (ウ) パスワードを紙などに記述して記録しない。
- (エ) パスワードをファンクションキーなどに登録しない。
- (オ) 自分の利用者IDとパスワードを他の者に教えることによりシステムの利用権限を他人に貸与しない。
- (カ) パスワードは、以下の条件で付与する。
  - a パスワードに使用するキャラクタは、アルファベット(大文字・小文字)、数字をそれぞれ最低限1文字以上用い4文字以上で使用する。
  - b 通常システムにログインする際には、パスワードを利用する。
- (キ) パスワードには、以下のような推測可能な用語を設定してはならない。(パスワードの禁則)
  - a 年月日、曜日、その他日付に関するもの
  - b 姓名、名字、イニシャル、ニックネームなど
  - c 医療機関名、部署名、それらに関するもの
  - d 電話番号やそれに類似するもの
  - e ユーザ識別子、ユーザネーム、グループID、他のシステムの識別子
- (ク) 利用者のパスワードは登録してから有効期限の60日が経過する日までに新しいパスワードに変更する。







# 横浜市立みなと赤十字病院

## 平成24年度事業計画書

### 「I 医療提供計画書」

#### 「8 職員」

(1) 組織図・職員配置予定数

(2) 診療科責任体制

(3) 看護責任体制

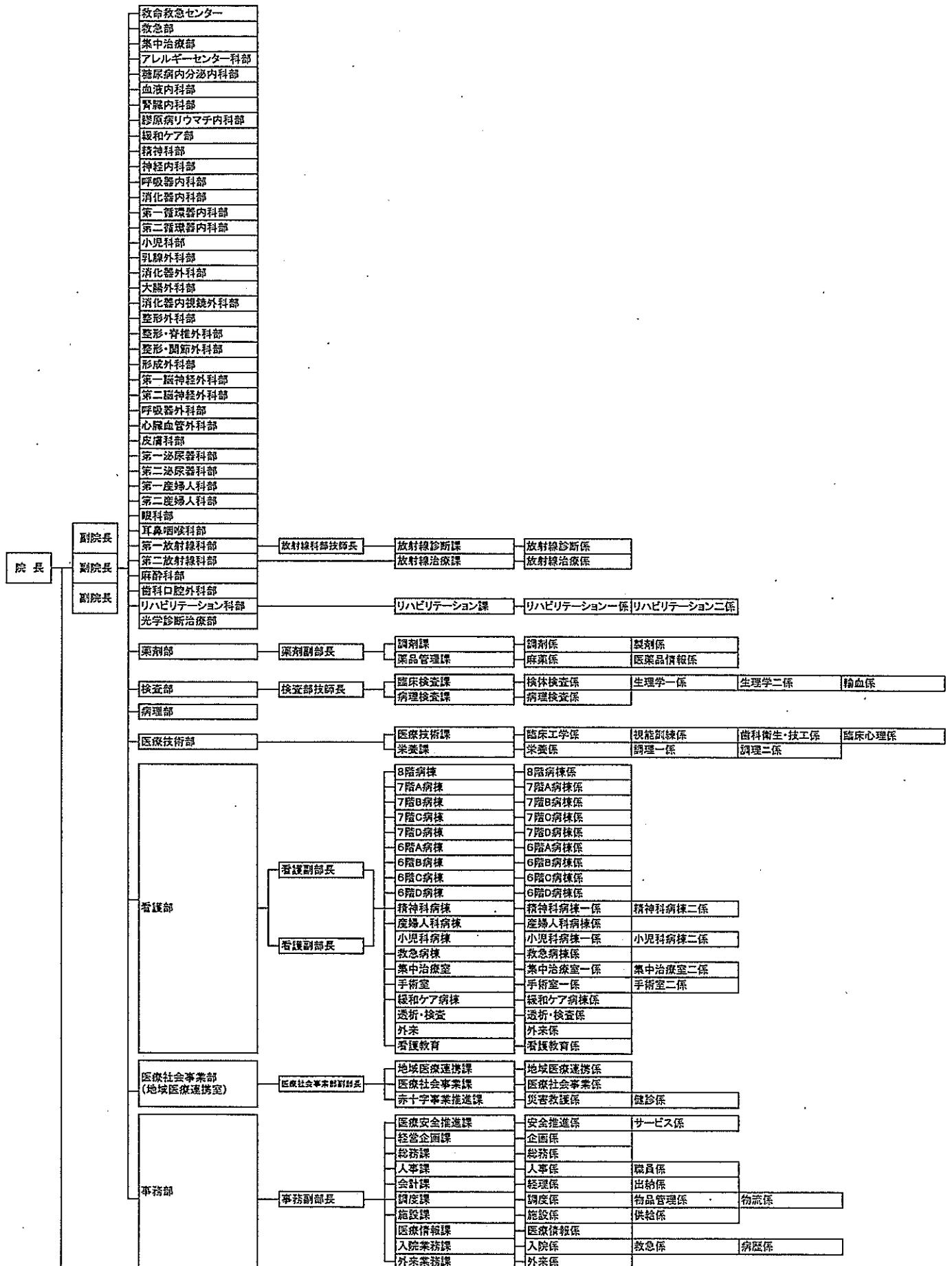
(4) 中央部門責任体制

(5) 管理部門責任体制

8 職員

(1) 組織図・職員配置予定図

組織図



## (1)組織図・職員配置予定数

## 職員配置予定数

職 種	配置予定	内 訳			備 考
		常勤	非常勤	派遣職員等	
管 理 部 門	事務職員	172	59	4	109
	技術職員	5	5		
	調理員	0			
	運転手	0			
	ボイラー技師	0			
	電話交換手	2	1		1
	その他	15	14		1 Ns 7 検査技師 1MSW 5 PSW 2
診 療 部 門	医師	143	140	3	
	歯科医師	4	4		
	事務職員	0			
看 護 部 門	看護師	627	607	20	
	准看護師	5	5		
	看護助手	65	15	50	
	事務職員	20	2	2	16 保育1含む
中 央 部 門	薬剤師	26	24	2	
	診療放射線技師	26	26		
	臨床検査技師	29	28	1	
	理学療法士	12	12		
	作業療法士	5	5		
	言語聴覚士	4	4		
	心理療法士	0			
	視能訓練士	2	2		
	歯科技工士	0			
	歯科衛生士	4	4		
	管理栄養士	5	5		
	栄養士	0			
	臨床工学技士	8	8		
	ケースワーカー	0			
	事務職員	3	3		
その他	8	8		マッサージ師1 臨床心理士1 調理師6	
その他	3	1	1	1 アレルギーセンター事務 3	
合 計	1193	982	83	128	



## (2) 診療科責任体制

	部門名	配置予定	職名	氏名
1	救命救急センター	1	センター長 副センター長	八木 啓一
2	救急部	4	診療科部長 副部長	伊藤 敏孝 原田 龍一
3	集中治療部	3	診療科部長 副部長	武居 哲洋
4	内科	14	診療科部長 診療科部長 診療科部長 診療科部長 副部長	渡辺 孝之 山本 晃一 中村 太一 萩山 裕之
5	呼吸器科	6	診療科部長 副部長	田ノ上 雅彦 河崎 勉
6	消化器科	9	診療科部長 診療科部長 副部長	有村 明彦 先田 信哉 河村 貴広
7	循環器科	9	診療科部長 診療科部長 副部長 副部長	沖重 薫 畔上 幸司 倉林 学 青柳 秀史
8	神経内科	4	診療科部長 副部長	田中 宏明
9	緩和ケア部	2	診療科部長 副部長	黒田 俊也
10	アレルギーセンター科	2	診療科部長 副部長	中村 陽一 遠藤 順治
11	小児科	8	診療科部長 副部長	菊池 信行 大澤 由記子
12	外科	8	診療科部長 診療科部長 診療科部長 診療科部長 副部長	阿部 哲夫 小尾 芳郎 長谷川 誠司 長田 俊一
13	呼吸器外科	1	診療科部長 副部長	田淵 典之 下山 武彦
14	心臓血管外科	3	診療科部長 副部長	田淵 典之
15	脳神経外科	4	診療科部長 診療科部長 副部長	持松 泰彦 高木 信
16	整形外科	9	診療科部長 診療科部長 診療科部長 副部長 副部長	小森 博達 北原 建彰 浅野 浩司 佐々木 真一 品田 春生
17	形成外科	3	診療科部長 副部長	伊藤 理
18	皮膚科	3	診療科部長 副部長	並木 剛
19	泌尿器科	5	診療科部長 診療科部長 副部長	岩崎 皓 土屋 ふとし 滝沢 明利
20	産婦人科	2	診療科部長 診療科部長 副部長	多田 聖郎 多田 聖郎 和知 敏樹
21	眼科	3	診療科部長 副部長	椎野 めぐみ
22	耳鼻咽喉科	4	診療科部長 副部長	新井 基洋 長尾 淳一
23	リハビリテーション科	2	診療科部長 副部長	小森 博達
24	精神科	7	診療科部長 副部長	石東 轟和 嶋津 奈
25	放射線科	3	診療科部長 診療科部長 副部長 副部長	大谷 洋一 大谷 洋一 遠藤 英穂 萩 成行
26	麻酔科	3	診療科部長 副部長	西村 一彦 三浦 泰
27	歯科口腔外科	3	診療科部長 副部長	向山 仁 生田 稔
28	病理部	1	診療科部長 副部長	萩山 裕之(兼任)
29	医療社会事業部	1	診療科部長 副部長	持松 泰彦 伊藤 美奈子
30	臨床研修医	20	前期研修 後期研修	13 7
	診療科計	147		

## (3)看護責任体制

	部門名	配置予定	職名	氏名	備考
1	看護部	10	看護部長	加治木 葉子	
			副部長	2	
			師長	3	
			係長		
2	外来	35	師長	1	
			係長	2	
3	手術室	34	師長	1	
			係長	1	
4	8階病棟	30	師長	1	
			係長	1	
5	7階A病棟	32	師長	1	
			係長	2	
6	7階B病棟	32	師長	1	
			係長	1	
7	7階C病棟	32	師長	1	
			係長	1	
8	7階D病棟	32	師長	1	
			係長	1	
9	6階A病棟	32	師長	1	
			係長	1	
10	6階B病棟	32	師長	1	
			係長	1	
11	6階C病棟	28	師長	1	
			係長	1	
12	6階D病棟	28	師長	1	
			係長	1	
13	精神科病棟	28	師長	1	
			係長	1	
14	産婦人科病棟	37	師長	1	
			係長	1	
15	小児科病棟	35	師長	1	
			係長	1	
16	救急病棟	42	師長	1	
			係長	1	
17	集中治療室	56	師長	1	
			係長	3	
18	緩和ケア病棟	24	師長	1	
			係長	欠	
19	透析室	28	師長	1	
			係長	0	
20	夜勤専従		師長		
			係長		
20	看護教育		師長	1	兼務
			係長		
21	看護部付	25	師長		
			係長		
22					
23					
	看護部計	632			

## (4)中央部門責任体制

部門名	配置予定	職名	氏名	備考
1 薬 劑 部	30	部長	高橋 弘充	
		副部長	1	
		課長	1	兼務調剤課(事務取扱)
		課長	1	医薬品管理
		係長	1	調剤係
		係長	1	製剤係
		係長	1	麻薬係
		係長	1	医薬品情報
2 第1放射線科部	26	部長	大谷 洋一	医師の兼務
		副部長	1	医師の兼務
		技師長	欠	
		課長	1	放射線診断課
		係長	欠	放射線診断係
		係長	3	放射線科部付
3 第2放射線科部		部長	大谷 洋一	医師の兼務
		副部長	1	医師の兼務
		課長	欠	技師長の兼務
		係長	欠	放射線治療係
4 検 査 部	29	部長	山本 晃	医師の兼務
		技師長	欠	
		課長	1	臨床検査課
		課長	欠	病理検査課
		係長	欠	検体検査係
		係長	欠	生理学一係
		係長	欠	生理学二係
		係長	3	輸血係
6 病 理 部		部長	萩山 裕之	医師の兼務
		課長	欠	
		係長	欠	
7 リハビリテーション科部	22	部長	小森 博達	副院長 事務取扱
		課長	欠	
		係長	1	リハビリテーション一係
		係長	1	リハビリテーション二係
8 医 療 技 術 部	24	部長	有村 明彦	医師の兼務
		課長	欠	医療技術課
		課長	1	兼務栄養課 事務取扱
		係長	1	臨床工学係
		係長	欠	視能訓練係
		係長	欠	歯科衛生・技工係
		係長	欠	臨床心理係
		係長	1	栄養係
		係長	欠	調理一係
係長	欠	調理二係		
9				
10				
中央部門計	131			

## (5) 管理部責任体制

	部門名	配置予定	職名	氏名	備考
1	医療社会事業部	23	部長	持松 泰彦	医師の兼務
			副部長	1	医師の兼務
			課長	欠	地域医療連携課(事務取扱)
			課長	欠	医療社会事業課
			係長	1	地域医療連携係
			係長	欠	医療社会事業係
2	事務部	171	部長	小山田 茂夫	
			副部長	欠	
			課長	1	医療安全推進課
			課長	1	経営企画課 兼務
			課長	1	総務課
			課長	1	人事課
			課長	1	会計課
			課長	1	調度課
			課長	1	施設課
			課長	欠	医療情報課(事務取扱)
			課長	1	入院業務課
			課長	1	外来業務課
			係長	欠	安全推進係
			係長	欠	サービス係
			係長	1	企画係(事務取扱)
			係長	1	総務係
			係長	1	人事係(事務取扱)
			係長	1	職員係
			係長	欠	経理係
			係長	欠	出納係
			係長	1	調度係
			係長	1	物品管理係
			係長	欠	物流係
			係長	1	施設係
			係長	欠	供給係
			係長	欠	医療情報係
			係長	1	入院係
			係長	欠	救急係
			係長	1	病歴係
			係長	1	外来係
課長	1	赤十字事業推進課			
係長	欠	災害救護係			
係長	欠	健診係			
3					
4					
	管理部計	194			

横浜市立みなと赤十字病院

平成24年度事業計画書

「Ⅱ 施設管理計画書」

「9 医療機器等の整備計画」

(1) 医療機器の整備計画

## 9 医療機器の整備計画

### (1) 医療機器の整備計画(購入予定価格500万円以上)

	部門名ごとに整理 (中央・看護・管 理・診療等)	機器名称	用途	新規・更新
1	未定	未定	未定	未定

横浜市立みなと赤十字病院

平成24年度事業計画書

「Ⅱ 施設管理計画書」

「10 施設管理」

(1) 施設設備管理計画

(1) 施設設備管理計画

(法定及び自主点検業務)

実施回数	実施内容	平成25年												関連法規及び保守管理基準	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
2回/年	1 消防設備等点検業務				○										消防法
2回/年	2 ばい煙測定			○											大気汚染防止法
1回/年	3 特高受変電設備定期検査							○							電気事業法
1回/年	4 高圧受変電設備定期検査									○					電気事業法
1回/年	5 無電圧電流保護継電器及び定期点検									○					電気事業法
(1回/年)	(非常用照明)									○					電気事業法
1回/年	6 直流電流保護継電器及び定期点検									○					電気事業法
毎月	7 自家用発電設備保守及び定期点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	電気事業法
(2回/年)	(非常用発電機)														電気事業法
1回/年	8 中央監視設備保守及び定期点検							○							メーカー標準点検
毎月	9 昇降機設備保守及び定期点検														建築基準法
各1回/年	10 ホイラー・圧力容器性能検査及び事前整備														労働安全衛生法
4回/年	11 コントラ設備保守及び性能検査														労働安全衛生法
1回/年	12 建築設備定期検査														建築基準法
1回/年	13 特殊建築物定期検査														建築基準法
1回/年	14 高層専用水道検査														水道法
1回/年	15 受水槽・高層水道定期清掃														水道法
2回/年	16 飲料水検査														水道法
毎月	17 冷却給湯設備保守及び水質管理														自主点検
2回/年	18 吸気式冷凍機定期点検														メーカー標準点検
2回/年	19 自動ドア保守及び定期点検														メーカー標準点検
毎月	20 衛生設備点検														ビル管理法
4回/年	21 配管グリスタリスター定期清掃業務														自主管理
6回/年	22 配管グリスタリスター定期清掃業務														自主管理
2回/年	23 駐車管理制圧機保守及び定期点検														メーカー標準点検
毎月	24 リニア搬送設備保守及び定期点検														メーカー標準点検
2回/年	25 汚水槽・副用排水槽清掃														横浜市条例
12回/年	26 換気系統水処理施設														メーカー標準点検
6回/年	27 副用排水処理設備														メーカー標準点検
12回/年	28 特定施設														下水浄法
1回/3年	29 地下タンク貯蔵所														消防法(24年度整備予定)
4回/年	30 送電ガス供給設備														高圧ガス保安法
3年/1回	31 CE設備														高圧ガス保安法
10年/1回	32 免震装置														1, 3, 5, 10年定期
2回/年	33 R1排水処理設備														消防設備点検法
毎月	34 コミコンテナ設備														メーカー標準点検
2回/年	35 プール・インターホン設備														メーカー標準点検
2回/年	36 空調自動制御定期点検														メーカー標準点検
毎月	37 機械式昇降機設備														メーカー標準点検
毎月	38 蒸気発生ボイラー定期点検														メーカー標準点検
毎月	39 電話設備														メーカー標準点検



(1) 施設設備管理計画

(法定及び自主点検業務)

	実施回数	平成24年(2012年)												関連法規及び保守管理基準	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
その他の保守管理業務															
1 廃棄物処理業務	毎月														廃棄物処理法により処理
2 燃焼等処理業務	毎月														燃焼物処理法により処理
3 害虫業務	毎月														院内・敷地内の害虫管理
4 施設・設備管理業務	毎月														設備等の運転・維持管理
5 一般エリア清掃業務	毎月														日常清掃による衛生・感染管理
6 特殊エリア清掃業務	毎月														ORP室、ICU等の感染管理
7 感染業務	2回/年			○					○						汚れにより適宜行う
8 植栽管理業務	毎月														院内・敷地内の適宜管理
9 空調機等フィルター交換	1回/年				○				○						フィルターの脏が積染により交換
10 //	毎月	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	汚れが認められたら交換
11 空調用加湿器等フィルター交換	1回/2-5年														メーカー標準
12 ファンユニット用フィルター交換	1回/年														汚れが認められたら交換
13 同窓換気機交換	1回/2-5年														メーカー標準
14 副床清掃業務	毎月														汚れにより適宜行う
15 エアレンガキシド濃度測定	2回/年	○							○						労働安全衛生法
16 ホルムアルデヒド作業環境測定	2回/年											○			労働安全衛生法

横浜市立みなと赤十字病院

平成24年度事業計画書

「11 経営計画」

- (1) 科別患者数
- (2) 科別患者数（中期経営計画）
- (3) 科別患者1人当たり収入分析
- (4) 科別収入計画
- (5) 中央部門業務計画
- (6) 損益計算書（中期経営計画）
- (7) 損益計算書・資本的（中期経営計画）
- (8) 手術件数
- (9) 出産件数

		1 外来患者数(実日数245日)														
		来院数				一日平均患者数		救急患者数					内救急車による来院			
		初診患者	再診患者	計	内併診	全体	併診外	時間内	時間内	時間外	時間外	合計	合計	時間内	時間外	合計
1	内科(救急部)	5,435	30,389	35,824	3,582	146	132	2,161		2,740		4,901		1,417	1,231	2,647
2	呼吸器科	1,985	12,092	13,082	1,308	53	48	18		484		502		2	164	166
3	消化器科	3,466	18,356	22,846	2,285	93	84	53		1,484		1,537		20	569	589
4	循環器科	2,161	13,388	14,248	1,425	58	52	49		456		506		36	198	233
5	神経内科	1,005	6,731	6,630	663	27	24	14		348		362		12	275	286
6	アレルギー科	595	3,812	3,923	392	16	14	2		91		93		2	18	20
7	小児科	2,236	10,624	14,738	1,474	60	54	140		3,704		3,845		55	401	456
8	外科	3,036	13,528	20,013	2,001	82	74	20		318		338		4	75	79
9	呼吸器外科	194	1,418	1,280	128	5	5	4		8		12		2	4	6
10	心臓血管外科	86	546	570	57	2	2	2		0		2		0	0	0
11	脳神経外科	628	3,110	4,137	414	17	15	14		709		723		10	425	435
12	整形外科	3,279	18,938	21,615	2,162	88	79	57		1,458		1,515		34	682	715
13	形成外科	1,077	6,413	7,097	710	29	26	22		427		448		14	158	172
14	皮膚科	1,528	9,914	10,072	1,007	41	37	34		395		429		0	57	57
15	泌尿器科	2,384	14,736	15,712	1,571	64	58	10		563		573		4	170	174
16	産婦人科	3,922	17,304	25,853	2,585	106	95	8		302		310		4	24	28
17	眼科	1,714	12,472	11,297	1,130	46	41	6		6		12		6	0	6
18	耳鼻咽喉科	2,303	11,800	15,180	1,518	62	56	20		693		713		10	251	261
19	リハビリテーション科	350	2,499	2,304	230	9	8	0		0		0		0	0	0
20	精神科	1,316	7,573	8,673	867	35	32	8		36		43		8	16	24
21	放射線科	670	3,717	4,414	441	18	16	0		4		4		0	2	2
22	麻酔科	0	0	0	0	0	0	0		0		0		0	0	0
23	歯科口腔外科	1,139	5,634	7,506	751	31	28	0		36		36		0	8	8
1	ICU															
2	CCU															
3	HCU															
4	救急病棟															
5	緩和ケアセンター															
6	心臓病センター															
7	脳神経センター															
8	呼吸器病センター															
9	アレルギーセンター															
	合計	40,506	224,992	267,014	26,701	1,090	981	3,052	3,052	14,262	14,486	16,903	17,538	1,638	4,726	6,363

11 経営計画  
 (1)科別患者数(入院)

		2 入院患者数(実日数365日)												
		入院数			一日平均患者数	平均在院日数	病床数	利用率	救急収容数			内救急車による来院		
		新入院	退院	延入院数					時間内	時間外	合計	時間内	時間外	合計
1	内科	1,784	1,784	33,191	90.94	23.6			372	724	1,096	342	724	1,067
2	呼吸器科	1,109	1,109	24,895	68.20	21.0			174	319	494	160	319	479
3	消化器科	1,603	1,603	21,213	58.12	12.4			162	292	454	118	292	410
4	循環器科	1,624	1,624	15,446	42.32	8.9			168	223	391	113	223	336
5	神経内科	415	415	10,733	29.41	24.2			78	143	221	67	143	210
6	アレルギー科	51	51	199	0.54	3.6			2	17	19	0	17	17
7	小児科	1,190	1,190	6,572	18.01	5.2			34	65	99	29	65	95
8	外科	1,560	1,560	22,251	60.96	13.4			86	105	191	71	105	176
9	呼吸器外科	64	64	1,026	2.81	15.0			0	4	4	0	4	4
10	心臓血管外科	92	92	2,999	8.22	30.5			8	10	19	6	10	17
11	脳神経外科	402	402	6,700	18.36	15.6			57	162	218	55	162	216
12	整形外科	1,276	1,276	24,200	66.30	17.8			90	202	292	84	202	286
13	形成外科	216	216	3,048	8.35	13.2			13	25	38	8	25	34
14	皮膚科	192	192	1,307	3.58	6.4			2	13	15	2	13	15
15	泌尿器科	842	842	8,987	24.62	10.0			44	29	74	40	29	69
16	産婦人科	1,077	1,077	10,138	27.77	8.8			19	25	44	15	25	40
17	眼科	299	299	823	2.25	2.6			0	2	2	0	2	2
18	耳鼻咽喉科	838	838	6,829	18.71	7.6			23	31	55	21	31	53
19	リハビリテーション科	0	0	0	0.00	-			0	0	0	0	0	0
20	精神科	194	194	8,020	21.97	38.7			17	4	21	13	4	17
21	放射線科	100	100	1,014	2.78	9.5			6	0	6	4	0	4
22	麻酔科	0	0	0	0.00	-			0	0	0	0	0	0
23	歯科口腔外科	201	201	603	1.65	2.8			2	0	2	0	0	0
1	ICU													
2	CCU													
3	HCU													
4	救急病棟													
5	緩和ケアセンター													
6	心臓病センター													
7	脳神経センター													
8	呼吸器病センター													
9	アレルギーセンター													
	合計	15,130	15,130	210,194	575.87		634	90.8	1,357	2,396	3,753	1,149	2,396	3,545

11 科別患者数  
(2)科別患者数(中期経営計画)  
外来

区分 年度	内		科呼吸器		科消化器		科循環器		科神経内科		科アレルギー科		科小児		科外科		科呼吸器外科		科心臓血管外科		科脳神経外科		科整形外科		計
	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	
24	35,824	146.22	13,082	53.40	22,846	93.25	14,248	58.16	6,630	27.06	3,923	16.01	14,738	60.16	20,013	81.69	1,280	5.22	570	2.33	4,137	16.89	21,615	88.22	
25	35,678	146.22	13,029	53.40	22,753	93.25	14,190	58.16	6,603	27.06	3,907	16.01	14,678	60.16	19,931	81.68	1,275	5.23	568	2.33	4,120	16.89	21,527	88.23	
26	35,678	146.22	13,029	53.40	22,753	93.25	14,190	58.16	6,603	27.06	3,907	16.01	14,678	60.16	19,931	81.68	1,275	5.23	568	2.33	4,120	16.89	21,527	88.23	
27	35,532	146.22	12,976	53.40	22,660	93.25	14,132	58.16	6,576	27.06	3,891	16.01	14,618	60.16	19,849	81.68	1,270	5.23	566	2.33	4,103	16.89	21,439	88.23	

区分 年度	形成外科		皮膚科		泌尿器科		産婦人科		科眼		科耳鼻咽喉科		科リハビリテーション科		科精神		科放射線		科麻酔		科歯科		科口腔外科		計
	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	
24	7,097	28.97	10,072	41.11	15,712	64.13	25,853	105.52	11,297	46.11	15,180	61.96	2,304	9.40	8,673	35.40	4,414	18.02	0	0.00	7,506	30.64	267,012	1,089.84	
25	7,068	28.97	10,072	41.28	15,648	64.13	25,747	105.52	11,251	46.11	15,118	61.96	2,295	9.41	8,638	35.40	4,396	18.02	0	0.00	7,475	30.64	265,922	1,089.84	
26	7,068	28.97	10,072	41.28	15,648	64.13	25,747	105.52	11,251	46.11	15,118	61.96	2,295	9.41	8,638	35.40	4,396	18.02	0	0.00	7,475	30.64	265,922	1,089.84	
27	7,039	28.97	10,031	41.28	15,584	64.13	25,641	105.52	11,205	46.11	15,056	61.96	2,286	9.41	8,603	35.40	4,378	18.02	0	0.00	7,444	30.64	264,832	1,089.84	

11 経営計画  
(2)科別患者数(中期経営計画)

入院

区分 年度	日数	内科		呼吸器科		消化器科		循環器科		神経内科		アレルギー科		小児科		外科		呼吸器外科		心血管外科		脳神経外科		整形外科	
		患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均
24	365	33,191	90.93	24,895	68.21	21,213	58.12	15,446	42.32	10,733	29.41	199	0.55	6,572	18.01	22,251	60.96	1,026	2.81	2,999	8.22	6,700	18.36	24,200	66.30
25	365	33,191	90.93	24,895	68.21	21,213	58.12	15,446	42.32	10,733	29.41	199	0.55	6,572	18.01	22,251	60.96	1,026	2.81	2,999	8.22	6,700	18.36	24,200	66.30
26	365	33,191	90.93	24,895	68.21	21,213	58.12	15,446	42.32	10,733	29.41	199	0.55	6,572	18.01	22,251	60.96	1,026	2.81	2,999	8.22	6,700	18.36	24,200	66.30
27	366	33,282	90.93	24,963	68.21	21,271	58.12	15,488	42.32	10,762	29.41	200	0.55	6,590	18.01	22,312	60.96	1,029	2.81	3,007	8.22	6,718	18.36	24,266	66.30

区分 年度	日数	形成外科		皮膚科		泌尿器科		産婦人科		眼科		耳鼻咽喉科		リハビリテーション科		精神科		放射線科		麻酔科		歯科		口腔外科		合計	
		患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均	患者 延数	一日 平均
24	365	3,048	8.35	1,307	3.58	8,987	24.62	10,138	27.78	823	2.25	6,829	18.71	0	0.00	8,020	21.97	1,014	2.78	0	0.00	603	1.65	210,194	575.87		
25	365	3,048	8.35	1,307	3.58	8,987	24.62	10,138	27.78	823	2.25	6,829	18.71	0	0.00	8,020	21.97	1,014	2.78	0	0.00	603	1.65	210,194	575.87		
26	365	3,048	8.35	1,307	3.58	8,987	24.62	10,138	27.78	823	2.25	6,829	18.71	0	0.00	8,020	21.97	1,014	2.78	0	0.00	603	1.65	210,194	575.87		
27	366	3,056	8.35	1,311	3.58	9,012	24.62	10,166	27.78	825	2.25	6,848	18.71	0	0.00	8,042	21.97	1,017	2.78	0	0.00	605	1.65	210,770	575.87		

## 11 経営計画

## (3) 科別患者一人当たり収入分析(外来)

24年度

		1 外来診療収入															
		初診料	再診料	投薬	注射	処置手 術	生理・検 体・病理 検査等	放射線	指導料	在宅	リハ	入院料	食事	室料	分娩	その他	合計
1	内科	714	508	755	2,999	849	4,507	2,023	242	2,019	0	0	0	0	0	190	14,805
2	呼吸器科	97	226	157	611	40	851	1,263	89	1,123	0	0	0	0	0	95	4,552
3	消化器科	295	370	191	910	133	4,291	1,772	164	9	0	0	0	0	0	153	8,289
4	循環器科	87	256	205	19	25	2,716	838	146	309	0	0	0	0	0	70	4,671
5	神経内科	71	103	79	11	2	663	1,019	124	64	0	0	0	0	0	38	2,173
6	アレルギー科	43	67	72	84	1	420	54	19	40	0	0	0	0	0	27	826
7	小児科	658	279	169	25	8	682	131	732	80	0	0	0	0	0	453	3,217
8	外科	67	271	134	4,700	103	1,607	2,100	475	529	0	0	0	0	0	189	10,174
9	呼吸器外科	1	20	7	427	0	67	269	38	0	0	0	0	0	0	8	837
10	心臓血管外科	2	9	4	0	0	64	89	3	1	0	0	0	0	0	6	178
11	脳神経外科	129	64	28	8	112	257	878	58	0	0	0	0	0	0	50	1,583
12	整形外科	370	368	203	94	315	394	2,235	88	3	145	0	0	0	0	370	4,585
13	形成外科	111	133	59	12	846	230	156	27	1	0	0	0	0	0	69	1,643
14	皮膚科	196	147	156	10	147	264	28	61	0	0	0	0	0	0	102	1,112
15	泌尿器科	138	287	387	2,505	434	1,262	1,571	251	285	0	0	0	0	0	110	7,232
16	産婦人科	37	90	40	238	58	1,558	314	66	1	0	0	0	0	0	2,013	4,415
17	眼科	56	157	107	2	218	1,112	44	15	0	1	0	0	0	0	49	1,770
18	耳鼻咽喉科	274	228	192	32	55	1,748	572	34	42	0	0	0	0	0	171	3,348
19	リハビリテーション科	2	35	4	0	0	1	8	1	0	219	0	0	0	0	4	275
20	精神科	33	151	138	82	0	113	124	38	1	806	0	0	0	0	45	1,530
21	放射線科	91	65	1,375	170	0	13	950	128	0	0	0	0	0	0	31	2,824
22	麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
23	歯科口腔外科	135	117	48	1	321	116	171	118	0	8	0	0	0	0	282	1,318
1	ICU	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	CCU	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	HCU	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	救急病棟	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	緩和ケアセンター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	心臓病センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	脳神経センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	呼吸器病センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	アレルギーセンター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	451	493	563	1,615	458	2,862	2,073	364	562	147	0	0	0	0	569	10,158

11 経営計画

(3)科別患者一人当たり収入分析(入院)

24年度

		2 入院診療収入																
		初診料	再診料	投薬	注射	処置手術	生理・検体・病理検査等	放射線	指導料	在宅	DPC	リハ	入院料	食事	室料	分娩	その他	合計
1	内科	129	0	345	392	4,360	364	326	223	120	24,764	367	22,121	1,327	2,776	0	187	57,802
2	呼吸器科	48	0	338	349	658	319	217	189	185	22,540	220	4,836	911	1,978	0	88	32,876
3	消化器科	52	0	335	229	4,658	516	153	181	21	18,056	149	4,786	732	1,658	0	47	31,574
4	循環器科	35	0	565	176	38,486	1,127	62	200	76	14,318	109	5,317	681	865	0	50	62,068
5	神経内科	23	0	132	116	264	177	99	68	30	9,262	1,068	2,569	481	679	0	30	14,999
6	アレルギー科	3	0	2	0	0	0	0	4	0	194	1	180	8	4	0	0	397
7	小児科	80	0	27	42	43	28	3	94	37	4,763	7	3,812	221	136	0	22	9,314
8	外科	27	0	206	281	12,215	317	272	342	32	21,140	149	3,618	748	1,791	0	47	41,187
9	呼吸器外科	1	0	9	3	1,937	27	25	13	5	915	0	154	47	56	0	1	3,192
10	心臓血管外科	2	0	44	137	7,836	103	25	13	6	2,939	59	1,739	133	94	0	28	13,159
11	脳神経外科	30	0	32	29	2,594	33	127	46	1	4,831	712	2,897	284	358	0	22	11,998
12	整形外科	48	0	174	127	17,438	154	166	183	24	14,575	882	6,224	1,215	1,717	0	40	42,969
13	形成外科	13	0	23	51	1,659	21	9	19	3	1,852	32	647	143	154	0	3	4,628
14	皮膚科	4	0	14	1	65	6	1	5	4	1,081	8	88	64	118	0	1	1,482
15	泌尿器科	5	0	144	21	2,864	203	237	87	27	7,338	42	784	384	570	0	12	12,718
16	産婦人科	5	0	55	130	2,606	126	64	26	0	4,522	4	686	230	703	9,604	153	18,914
17	眼科	0	0	5	0	886	8	1	27	0	595	0	56	28	58	0	1	1,668
18	耳鼻咽喉科	17	0	365	3	1,424	65	5	96	7	5,911	19	324	298	829	0	12	9,375
19	リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20	精神科	2	0	119	13	10	47	25	10	1	0	530	6,093	400	140	0	8	7,397
21	放射線科	0	0	24	5	15	3	239	18	5	844	5	69	45	176	0	2	1,450
22	麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
23	歯科口腔外科	1	0	10	7	267	18	13	9	0	0	0	366	21	52	0	208	973
1	ICU	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	CCU	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	HCU	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	救急病棟	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	緩和ケアセンター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	心臓病センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	脳神経センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	呼吸器センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	アレルギーセンター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	83	0	469	334	15,835	578	326	292	92	25,334	689	10,638	1,326	2,355	1,516	152	60,021







## (11) 中央部門業務計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
手術室													
全身麻酔	件数	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	3,000
局所麻酔	件数	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	1,320
脊椎麻酔	件数	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	480
合計	件数	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	4,800
薬剤部													
入院処方	件数	8,200	8,200	8,200	8,200	8,200	8,200	8,200	8,200	8,200	8,200	8,200	98,400
入院注射	件数	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	108,000
外来処方	件数	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	1,320
外来時間外処方	件数	910	910	910	910	910	910	910	910	910	910	910	10,920
外来注射	件数	610	610	610	610	610	610	610	610	610	610	610	7,320
院外処方箋	件数	10,300	10,300	10,300	10,300	10,300	10,300	10,300	10,300	10,300	10,300	10,300	123,600
抗がん剤混注	件数	720	720	720	720	720	720	720	720	720	720	720	8,640
IVH調整	件数	130	130	130	130	130	130	130	130	130	130	130	1,560
服薬指導	件数	470	470	470	470	470	470	470	470	470	470	470	5,640
理学療法	件数	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	30,000
作業療法	件数	910	910	910	910	910	910	910	910	910	910	910	10,920
言語聴覚療法	件数	980	980	980	980	980	980	980	980	980	980	980	11,760
合計	件数	4,390	4,390	4,390	4,390	4,390	4,390	4,390	4,390	4,390	4,390	4,390	52,680
内視鏡													
気管支鏡	件数	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
上部消化管	件数	370	370	370	370	370	370	370	370	370	370	370	4,440
下部消化管	件数	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	1,800
ERCP	件数	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	480
超音波内視鏡	件数	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
合計	件数	585	585	585	585	585	585	585	585	585	585	585	7,020
透析													
透析	件数	190	190	190	190	190	190	190	190	190	190	190	2,280
血漿交換	件数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
合計	件数	191	191	191	191	191	191	191	191	191	191	191	2,292
栄養課													
一般食	件数	27,700	27,700	27,700	27,700	27,700	27,700	27,700	27,700	27,700	27,700	27,700	332,400
治療食	件数	8,200	8,200	8,200	8,200	8,200	8,200	8,200	8,200	8,200	8,200	8,200	98,400
調乳	件数	330	330	330	330	330	330	330	330	330	330	330	3,960
栄養相談	件数	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	1,440
合計	件数	36,350	36,350	36,350	36,350	36,350	36,350	36,350	36,350	36,350	36,350	36,350	436,200

(11) 中央部門業務計画 (検査部)

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
一般(プランチ)	6,300	6,300	6,300	6,300	6,300	6,300	6,300	6,300	6,300	6,300	6,300	6,300	75,600
血液	12,800	12,800	12,800	12,800	12,800	12,800	12,800	12,800	12,800	12,800	12,800	12,800	153,600
血液(外注)	8,200	8,200	8,200	8,200	8,200	8,200	8,200	8,200	8,200	8,200	8,200	8,200	98,400
生化学(プランチ)	117,800	117,800	117,800	117,800	117,800	117,800	117,800	117,800	117,800	117,800	117,800	117,800	1,413,600
免疫血清(プランチ)	5,400	5,400	5,400	5,400	5,400	5,400	5,400	5,400	5,400	5,400	5,400	5,400	64,800
細菌(一般)	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	35,750
細菌(結核)	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	1,800
血液ガス(プランチ)	700	700	700	700	700	700	700	700	700	700	700	700	8,400
血液検査合計	154,350	154,350	154,350	154,350	154,350	154,350	154,350	154,350	154,350	154,350	154,350	154,350	1,852,200
心電図	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	26,400
脳波	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	480
呼吸機能	380	380	380	380	380	380	380	380	380	380	380	380	4,560
超音波	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	14,400
心カテ	140	140	140	140	140	140	140	140	140	140	140	140	1,680
耳鼻科検査	470	470	470	470	470	470	470	470	470	470	470	470	5,640
筋電図・脈波・その他	130	130	130	130	130	130	130	130	130	130	130	130	1,560
生理検査合計	4,560	4,560	4,560	4,560	4,560	4,560	4,560	4,560	4,560	4,560	4,560	4,560	54,720
時間外検査	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	27,600
外注検査	15,600	15,600	15,600	15,600	15,600	15,600	15,600	15,600	15,600	15,600	15,600	15,600	187,200
外来採血患者数	4,900	4,900	4,900	4,900	4,900	4,900	4,900	4,900	4,900	4,900	4,900	4,900	58,800
入院患者採血管理係数	3,400	3,400	3,400	3,400	3,400	3,400	3,400	3,400	3,400	3,400	3,400	3,400	40,800
採血管理係数	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
尿素呼吸試験	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360
細菌診断	480	480	480	480	480	480	480	480	480	480	480	480	5,760
迅速診断	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	120
細胞診断	340	340	340	340	340	340	340	340	340	340	340	340	4,080
その他	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
病理解剖	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
合計	852	852	852	852	852	852	852	852	852	852	852	852	10,224
MAP	560	560	560	560	560	560	560	560	560	560	560	560	6,720
FFP	240	240	240	240	240	240	240	240	240	240	240	240	2,880
自己血	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
濃厚血小板	720	720	720	720	720	720	720	720	720	720	720	720	8,640
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1,540	1,540	1,540	1,540	1,540	1,540	1,540	1,540	1,540	1,540	1,540	1,540	18,480
血液型	540	540	540	540	540	540	540	540	540	540	540	540	6,480
交差試験	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	3,600
不規則抗体	420	420	420	420	420	420	420	420	420	420	420	420	5,040
その他	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	480
合計	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	15,600

(11) 中央部門業務計画 (放射線科部)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
X線	胸部撮影 人数	4,100	4,100	4,100	4,100	4,100	4,100	4,100	4,100	4,100	4,100	4,100	49,200
	腹部撮影 人数	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	14,400
	骨部撮影 人数	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	21,600
	その他単純撮影 人数	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	1,320
	血管造影 人数	160	160	160	160	160	160	160	160	160	160	160	1,920
	消化器造影 人数	220	220	220	220	220	220	220	220	220	220	220	2,640
	泌尿器造影 人数	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	720
	透視他造影 人数	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	1,200
	骨塩定量 人数	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	1,200
	合計	7,850	7,850	7,850	7,850	7,850	7,850	7,850	7,850	7,850	7,850	7,850	94,200
上記の内数	ポータブル 人数	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	16,800
	骨塩定量 人数	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	1,200
CT検査	頭頸部 人数	720	720	720	720	720	720	720	720	720	720	720	8,640
	躯幹部 人数	1,590	1,590	1,590	1,590	1,590	1,590	1,590	1,590	1,590	1,590	1,590	19,080
MRI 検査	合計 人数	2,310	2,310	2,310	2,310	2,310	2,310	2,310	2,310	2,310	2,310	2,310	27,720
	頭頸部 人数	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	3,600
RI 検査	その他 人数	570	570	570	570	570	570	570	570	570	570	570	6,840
	合計 人数	870	870	870	870	870	870	870	870	870	870	870	10,440
放射線 治療	体外測定 件数	130	130	130	130	130	130	130	130	130	130	130	1,560
	X線 件数	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	4,800
電子線 治療	電子線 件数	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	480
	合計 件数	440	440	440	440	440	440	440	440	440	440	440	5,280

11 経営計画  
(6) 損益計算書(中期経営計画)  
収 益

項目	22年度		23年度		24年度		増加率% (C-B)/B*100	増減 (C)-(B)	増加率% (D-C)/C*100	増減 (D)-(C)	25年度 収益比	増減 (E)-(D)	増加率% (E-D)/D*100
	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)								
みなし子会社等利益	15,033,310	15,038,736	65,426	15,123,303	24,567	15,112,805	-0.1%	15,112,805	-10,408	14,410,974	104.7%	40,792	0.3%
営業収益	14,334,309	14,336,905	62,596	14,421,472	24,567	14,410,974	0.4%	14,410,974	-10,408	14,410,974	102.6%	50,792	0.3%
入庫分	10,991,802	11,163,966	172,164	11,167,537	3,571	11,167,537	0.0%	11,167,537	0	11,167,537	102.5%	0	0.0%
差	3,342,497	3,172,939	170,558	3,253,935	80,403	3,243,437	-0.3%	80,403	0	80,403	102.5%	0	0.0%
営業費用	1,875,451	1,875,451	0	1,875,451	0	1,875,451	0.0%	1,875,451	0	1,875,451	100.0%	0	0.0%
営業利益	12,458,857	12,461,454	2,597	12,546,021	24,567	12,535,523	0.2%	12,535,523	-10,408	12,525,115	104.4%	10,408	0.0%
営業外収益	699,001	701,831	2,830	704,661	2,830	707,491	0.4%	707,491	0	707,491	100.0%	0	0.0%
営業外費用	455,455	458,315	2,830	461,145	2,830	464,015	0.6%	464,015	0	464,015	100.0%	0	0.0%
その他の	243,516	243,516	0	243,516	0	243,516	0.0%	243,516	0	243,516	100.0%	0	0.0%
総計	13,919	13,919	0	14,000	81	14,081	0.6%	14,081	0	14,081	100.0%	0	0.0%

項目	22年度		23年度		24年度		増加率% (D-C)/C*100	増減 (D)-(C)	増加率% (E-D)/D*100	増減 (E)-(D)	25年度 収益比	増減 (F)-(E)	増加率% (F-E)/E*100
	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)								
営業費用	14,932,760	14,932,760	0	15,052,403	120,643	15,052,403	0.8%	120,643	0	120,643	100.0%	0	0.0%
営業外費用	1,875,451	1,875,451	0	1,875,451	0	1,875,451	0.0%	1,875,451	0	1,875,451	100.0%	0	0.0%
その他の	243,516	243,516	0	243,516	0	243,516	0.0%	243,516	0	243,516	100.0%	0	0.0%
総計	17,051,727	17,051,727	0	17,171,370	120,643	17,171,370	0.7%	120,643	0	120,643	100.0%	0	0.0%
営業利益	1,583,096	1,588,693	5,597	1,670,618	81,925	1,668,072	5.2%	81,925	0	81,925	104.4%	6,997	0.4%
営業外利益	1,328,905	1,330,762	1,857	1,336,822	6,060	1,338,682	0.4%	6,060	0	6,060	100.0%	0	0.0%
その他の	109,726	109,726	0	109,726	0	109,726	0.0%	109,726	0	109,726	100.0%	0	0.0%
総計	2,021,727	2,029,181	7,454	2,117,166	88,045	2,116,480	4.3%	88,045	0	88,045	104.3%	6,997	0.3%
営業利益	1,583,096	1,588,693	5,597	1,670,618	81,925	1,668,072	5.2%	81,925	0	81,925	104.4%	6,997	0.4%
営業外利益	1,328,905	1,330,762	1,857	1,336,822	6,060	1,338,682	0.4%	6,060	0	6,060	100.0%	0	0.0%
その他の	109,726	109,726	0	109,726	0	109,726	0.0%	109,726	0	109,726	100.0%	0	0.0%
総計	2,021,727	2,029,181	7,454	2,117,166	88,045	2,116,480	4.3%	88,045	0	88,045	104.3%	6,997	0.3%

\*収益比とは、各費用の対営業収益比率のことで、(各費用)/(営業収益)で算出。

項目	22年度		23年度		24年度		増加率% (E-D)/D*100	増減 (E)-(D)	増加率% (F-E)/E*100	増減 (F)-(E)	25年度 収益比	増減 (G)-(F)	増加率% (G-F)/F*100
	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)								
営業利益	1,583,096	1,588,693	5,597	1,670,618	81,925	1,668,072	5.2%	81,925	0	81,925	104.4%	6,997	0.4%
営業外利益	1,328,905	1,330,762	1,857	1,336,822	6,060	1,338,682	0.4%	6,060	0	6,060	100.0%	0	0.0%
その他の	109,726	109,726	0	109,726	0	109,726	0.0%	109,726	0	109,726	100.0%	0	0.0%
総計	2,021,727	2,029,181	7,454	2,117,166	88,045	2,116,480	4.3%	88,045	0	88,045	104.3%	6,997	0.3%

11. 經營計畫  
(7) 損益計算書資本的(中期經營計畫)

	22 (A)	23 (B)	増減 (B)-(A)	増加率% (B-A)/A*100	24 (C)	増減 (C)-(B)	増加率% (C-B)/B*100	25 (D)	増減 (D)-(C)	増加率% (D-C)/C*100	26 (E)	増減 (E)-(D)	増加率% (E-D)/D*100
資本的收入	408,705	558,205	149,500	36.6	558,205	0	0.0	558,205	0	#DIV/0!	558,205	0	#DIV/0!
資本的收入	408,705	558,205	149,500	36.6	558,205	0	0.0	558,205	0	#DIV/0!	558,205	0	#DIV/0!
固定負債	253,200	90,000	-163,200	-64.5	90,000	0	0.0	90,000	0	#DIV/0!	90,000	0	#DIV/0!
その他資本収入	155,505	468,205	312,700	201.1	468,205	0	0.0	468,205	0	#DIV/0!	468,205	0	#DIV/0!

資本的支出	408,705	558,205	149,500	36.6	558,205	0	0.0	558,205	0	#DIV/0!	558,205	0	#DIV/0!
資本的支出	408,705	558,205	149,500	36.6	558,205	0	0.0	558,205	0	#DIV/0!	558,205	0	#DIV/0!
固定資産	100,500	250,000	149,500	148.8	250,000	0	0.0	250,000	0	#DIV/0!	250,000	0	#DIV/0!
借入金等償還	308,205	308,205	0	0.0	308,205	0	#DIV/0!	308,205	0	#DIV/0!	308,205	0	#DIV/0!
その他負債	0	0	0	#DIV/0!	0	0	#DIV/0!	0	0	#DIV/0!	0	0	#DIV/0!

11 経営計画  
(8)手術件数

	部門名	23
1	内 科	56
2	呼 吸 器 科	0
3	消 化 器 科	0
4	循 環 器 科	10
5	神 経 内 科	0
6	アレルギ－科	0
7	小 児 科	0
8	外 科	930
9	呼 吸 器 外 科	52
10	心 臓 血 管 外 科	100
11	脳 神 経 外 科	122
12	整 形 外 科	1,142
13	形 成 外 科	474
14	皮 膚 科	174
15	泌 尿 器 科	402
16	産 婦 人 科	384
17	眼 科	290
18	耳 鼻 咽 喉 科	202
19	リハビリテーション科	0
20	精 神 科	206
21	放 射 線 科	0
22	麻 酔 科	0
23	歯 科 口 腔 外 科	190
	計	4,734



11 経営計画  
(9) 出産件数

24年度

1 出 産 件 数            855

月	件数
4月	50
5月	55
6月	60
7月	65
8月	70
9月	75
10月	80
11月	80
12月	80
1月	80
2月	80
3月	80
合計	855